

|  |                      |             |                  |
|--|----------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英語学概論  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|  |                      |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項<br>英語学   |             |                  |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語の成り立ちや背景を身近なところから理解し、さらに深くことばについて考察することを授業のねらいとする。实例を挙げたり、分類したりすることで、身近な言語表現について分析したり、説明したりすることができるようになる。</p>   |                      |             |                  |
| <p>授業の概要</p> <p>英語の歴史やしくみ（音・単語・文）、ことばの意味、語と語との意味関係、意味の拡張、日常会話におけるルールなどについて学習する。</p>  |                      |             |                  |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス / ことばの起源と語族</p> <p>第2回：人間のことばと言語研究</p> <p>第3回：英語の発音とスペリング</p> <p>第4回：英語の語彙の多様性</p> <p>第5回：標準英語の成立</p> <p>第6回：英語のバリエーション</p> <p>第7回：ことばの変化</p> <p>第8回：ことばと音声</p> <p>第9回：音の組み合わせとアクセント</p> <p>第10回：単語ができるしくみ</p> <p>第11回：文ができるしくみ</p> <p>第12回：ことばの意味とは何だろう</p> <p>第13回：語と語との意味関係</p> <p>第14回：意味の拡張</p> <p>第15回：ことばのやり取りにおけるルール</p> <p>定期試験 期末レポート</p> |                      |             |                  |
| <p>テキスト</p> <p>長谷川瑞穂編著 『はじめての英語学&lt;改訂版&gt;』 研究社（2014） ISBN 978-4-327-40165-8</p>  |                      |             |                  |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する</p>   |                      |             |                  |

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎授業の振り返りレポート（30%）、発展課題（20%）

により評価する。

|   |                      |             |                  |
|---|----------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英語音声学   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>英語学   |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>英語を聞き取る力や英語らしい音声が調音できる力を身に付け、英語発音の方法や音変化のルールについて理解し、説明できるようになる。   |                      |             |                  |
| 授業の概要<br>授業中の活動を通して、英語の4技能の中でも、聞く力と話す力の向上を目指す。  |                      |             |                  |
| 授業計画<br>第1回：オリエンテーション / 文強勢<br>第2回：短縮形の発音<br>第3回：発音記号の区別<br>第4回：音の連結<br>第5回：語強勢<br>第6回：英語の子音<br>第7回：イントネーション、リズム<br>第8回：アクセント位置のルール<br>第9回：音の脱落<br>第10回：音の連結<br>第11回：英語の母音<br>第12回：英語の母音+子音の発音<br>第13回：長母音、短母音の発音<br>第14回：音の同化<br>第15回：強形と弱形<br>定期試験 パフォーマンス課題及び実技テスト |                      |             |                  |
| テキスト<br>James Bury, Anthony Sellick, Kaori Horiuchi 著 『Complete Communication Book I - Basic-』 成美堂 (2022) 第2版 ISBN 978-4-7919-7241-8  |                      |             |                  |
| 参考書・参考資料等<br>必要に応じて授業中に紹介する   |                      |             |                  |
| 学生に対する評価  |                      |             |                  |

予習課題（30%）、復習課題（30%）、パフォーマンス課題及び実技テスト（40%）により評価する。

|   |                      |             |                  |
|---|----------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英文法 I   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>英語学   |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                      |             |                  |
| 英語の基本的な文法を十分に理解した上で、既習の知識を運用できるようになる。   |                      |             |                  |
| 授業の概要   |                      |             |                  |
| 4技能を使用した活動を通して、英文法の知識の理解を深め、運用能力を向上する。  |                      |             |                  |
| 授業計画  |                      |             |                  |
| 第1回：ガイダンス / イントロダクション   |                      |             |                  |
| 第2回：be 動詞「人や物の特徴を説明できる」   |                      |             |                  |
| 第3回：一般動詞 1「英語の基本的な表現を使用できる」   |                      |             |                  |
| 第4回：一般動詞 2「英語の発展的な表現を使用できる」   |                      |             |                  |
| 第5回：まとめ、復習 1  |                      |             |                  |
| 第6回：人称代名詞「家族について説明できる」  |                      |             |                  |
| 第7回：Wh-疑問文「英語で尋ねることができる」  |                      |             |                  |
| 第8回：過去形「過去の出来事を説明できる」   |                      |             |                  |
| 第9回：まとめ、復習 2  |                      |             |                  |
| 第10回：現在完了形 1「今も継続している動作を表現できる」  |                      |             |                  |
| 第11回：現在完了形 2「経験したことや完了したことを表現できる」   |                      |             |                  |
| 第12回：進行形「習慣的な活動と一般的な活動について表現できる」  |                      |             |                  |
| 第13回：未来表現「休暇について表現できる」  |                      |             |                  |
| 第14回：助動詞 1「コミュニケーションを円滑にする表現を使用できる」   |                      |             |                  |
| 第15回：まとめ、復習 3   |                      |             |                  |
| 定期試験  |                      |             |                  |
| テキスト  |                      |             |                  |
| 山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett 著<br>『Living Grammar』成美堂（2021）第2版 ISBN 978-4-7919-7227-2 |                      |             |                  |
| 参考書・参考資料等   |                      |             |                  |
| 必要に応じて授業中に紹介する  |                      |             |                  |
| 学生に対する評価  |                      |             |                  |
| 定期試験（40%）、予習課題（20%）、復習小テスト（20%）、パフォーマンス課題（20%）によ  |                      |             |                  |

り評価する。

|   |                      |             |                  |
|---|----------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英文法Ⅱ  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>英語学   |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                      |             |                  |
| 英語の基本的な文法を十分に理解した上で、既習の知識を運用できるようになる。   |                      |             |                  |
| 授業の概要   |                      |             |                  |
| 4技能を使用した活動を通して、英文法の知識の理解を深め、運用能力を向上する。  |                      |             |                  |
| 授業計画  |                      |             |                  |
| 第1回：ガイダンス / イントロダクション   |                      |             |                  |
| 第2回：助動詞 2「決まり事を尋ねたり伝えたりすることができる」  |                      |             |                  |
| 第3回：接続詞 1「等位接続詞を使うことができる」   |                      |             |                  |
| 第4回：受動態「ニュースや出来事を受動態で表すことができる」  |                      |             |                  |
| 第5回：まとめ、復習 1  |                      |             |                  |
| 第6回：副詞「頻度を表す副詞を使用することができる」  |                      |             |                  |
| 第7回：形容詞「-ing や -ed でおわる形容詞を使い分けることができる」   |                      |             |                  |
| 第8回：原級、比較級、最上級「世界の地理や文化について、比較をすることができる」  |                      |             |                  |
| 第9回：まとめ、復習 2  |                      |             |                  |
| 第10回：前置詞「時間や場所を表す前置詞を使用することができる」  |                      |             |                  |
| 第11回：接続詞 2「従位接続詞を使用することができる」  |                      |             |                  |
| 第12回：不定詞、動名詞「ことわざにおける不定詞や動名詞の用法を理解することができる」   |                      |             |                  |
| 第13回：関係詞「人、事物、場所を説明することができる」  |                      |             |                  |
| 第14回：仮定法「現実にはありえない内容を表現することができる」  |                      |             |                  |
| 第15回：まとめ、復習 3   |                      |             |                  |
| 定期試験  |                      |             |                  |
| テキスト  |                      |             |                  |
| 山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett 著<br>『Living Grammar』成美堂（2021）第2版 ISBN 978-4-7919-7227-2 |                      |             |                  |
| 参考書・参考資料等   |                      |             |                  |
| 必要に応じて授業中に紹介する  |                      |             |                  |
| 学生に対する評価  |                      |             |                  |
| 定期試験（40%）、予習課題（20%）、復習小テスト（20%）、パフォーマンス課題（20%）によ  |                      |             |                  |

り評価する。

|   |                      |             |                 |
|---|----------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>英語文学論   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>白木 麻美 |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>英語文学  |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>この授業では児童英語文学を含む様々な代表的な英語文学の作品を精読して、それぞれの英語文学作品の背景にある多様な文化を共に学ぶ。   |                      |             |                 |
| 授業の概要<br>作品に関連する概要を学んだ後、英語文学作品を読んでいく。受講者は予め指定された範囲を読解して授業に臨み、授業では訳読を発表する。その後レポートにまとめて提出する。  |                      |             |                 |
| 授業計画<br>第1回：Introduction<br>第2回：Lucy M. Boston 及び The children of Green Knowe について<br>第3回：Lucy M. Boston の The children of Green Knowe 読解<br>第4回：Beatrix Potter 及び The Tale of Peter Rabbit について<br>第5回：Beatrix Potter の The Tale of Peter Rabbit 読解<br>第6回：Beatrix Potter の The Tale of Peter Rabbit 読解<br>第7回：Beatrix Potter の The Tale of Peter Rabbit 読解<br>第8回：Michael Bond 及び Paddington Bear について<br>第9回：Michael Bond の Paddington at the Palace 読解<br>第10回：Michael Bond の Paddington at the Palace 読解<br>第11回：Michael Bond の Paddington at the Palace 読解<br>第12回：William Shakespeare について<br>第13回：William Shakespeare の Romeo and Juliet 読解<br>第14回：William Shakespeare の Romeo and Juliet 読解<br>第15回：まとめ |                      |             |                 |
| テキスト<br>教科書は使用しない。使用予定の資料や文献は適宜配布する。  |                      |             |                 |
| 参考書・参考資料等   |                      |             |                 |
| 学生に対する評価<br>授業参加態度30% 課題40% 小テスト30%   |                      |             |                 |

|  |                      |               |                  |
|--|----------------------|---------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英語文学史 I  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位   | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|  |                      |               | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目     |               |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項<br>英語文学  |               |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                      |               |                  |
| 英米文学史の基礎的知識と分析方法を身に付け、英米文学の歴史やその背景について、理解を深める。個々の作家の作品を鑑賞し、分析することができるようになる。        |                      |               |                  |
| 授業の概要  |                      |               |                  |
| 古期から20世紀までのイギリス文学の背景や、代表的な作家の作品の内容を扱う。<br>講義で扱う作家や作品について、予習や復習を通して、イギリス文学史の理解を深める。 |                      |               |                  |
| 授業計画   |                      |               |                  |
| 第1回：ガイダンス  |                      |               |                  |
| 第2回：7—15世紀   | 古期から中世               | 『キャンタベリー物語』   | 他                |
| 第3回：15—16世紀  | ルネッサンス期              | トーマス・モア       | 他                |
| 第4回：16世紀後半   | 演劇時代                 | トマス・キッド       | 他                |
| 第5回：16—17世紀  | シェークスピアの時代           |               |                  |
| 第6回：17世紀前半   | 清教徒革命の時代             | ベン・ジョンソン      | 他                |
| 第7回：17世紀後半   | 清教徒革命後の時代            | 『失樂園』         | 他                |
| 第8回：18世紀   | 散文、詩、劇               | スウィフト         | 他                |
| 第9回：18世紀   | 小説時代                 | 『ロビンソン・クルーソー』 | 他                |
| 第10回：18—19世紀   | ロマン主義                | キーツ           | 他                |
| 第11回：19世紀  | ヴィクトリア朝 詩、散文         | カーライル         | 他                |
| 第12回：19世紀  | ヴィクトリア朝 小説           | ディケンズ         | 他                |
| 第13回：20世紀  | 詩、劇                  | エリオット         | 他                |
| 第14回：20世紀  | 小説                   | ジェイムズ         | 他                |
| 第15回：まとめ   |                      |               |                  |
| 定期試験 期末レポート  |                      |               |                  |
| テキスト   |                      |               |                  |
| 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 研究社出版 (1986) ISBN 4-327-37501-2 C1398                              |                      |               |                  |
| 参考書・参考資料等  |                      |               |                  |
| 必要に応じて授業中に紹介する   |                      |               |                  |
| 学生に対する評価   |                      |               |                  |

期末レポート（50%）、予習課題（20%）、復習課題（30%）により評価する。

|  |                      |                    |                  |
|--|----------------------|--------------------|------------------|
| 授業科目名：<br>英語文学史Ⅱ   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位        | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|  |                      |                    | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目     |                    |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項<br>英語文学  |                    |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                      |                    |                  |
| 英米文学史の基礎的知識と分析方法を身に付け、英米文学の歴史やその背景について、理解を深める。個々の作家の作品を鑑賞し、分析することができるようになる。        |                      |                    |                  |
| 授業の概要  |                      |                    |                  |
| 植民地時代から20世紀までのアメリカ文学の背景や、代表的な作家の作品を扱う。<br>講義で扱う作家や作品について、予習や復習を通して、アメリカ文学史の理解を深める。 |                      |                    |                  |
| 授業計画   |                      |                    |                  |
| 第1回：ガイダンス  |                      |                    |                  |
| 第2回：植民地時代 1  | 旅行記                  | ウィリアム・バード 他        |                  |
| 第3回：植民地時代 2  | 歴史書・伝記               | ブラッドフォード 他         |                  |
| 第4回：植民地時代 3  | 詩                    | エドワード・テイラー 他       |                  |
| 第5回：ロマンティズム 1  | 旅行記・報告記              | 『アメリカの農夫の手紙』 他     |                  |
| 第6回：ロマンティズム 2  | 随筆                   | アーヴィング 他           |                  |
| 第7回：ロマンティズム 3  | 小説                   | 『アンクル・トムの小屋』 他     |                  |
| 第8回：ロマンティズム 4  | 小説                   | エドガー・アラン・ポー 他      |                  |
| 第9回：ロマンティズム 5  | 小説                   | マーク・トウェイン 他        |                  |
| 第10回：リアリズム時代 1   | 小説                   | O・ヘンリー 他           |                  |
| 第11回：リアリズム時代 2   | 小説                   | シャーウッド・アンダスン 他     |                  |
| 第12回：リアリズム時代 3   | 小説                   | F・スコット・フィッツジェラルド 他 |                  |
| 第13回：リアリズム時代 4   | 小説                   | アーネスト・ヘミングウェイ 他    |                  |
| 第14回：リアリズム時代 5   | 小説                   | ジョン・スタインベック 他      |                  |
| 第15回：まとめ   |                      |                    |                  |
| 定期試験 期末レポート  |                      |                    |                  |
| テキスト   |                      |                    |                  |
| 大橋吉之輔著 『アメリカ文学史』 研究社出版 (1987) ISBN 4-327-37502-0 C1398                             |                      |                    |                  |
| 参考書・参考資料等  |                      |                    |                  |
| 必要に応じて授業中に紹介する   |                      |                    |                  |
| 学生に対する評価   |                      |                    |                  |

期末レポート（50%）、予習課題（20%）、復習課題（30%）により評価する。

|  |                            |             |                           |
|--|----------------------------|-------------|---------------------------|
| 授業科目名：<br>英語コミュニケーション<br>I   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目       | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：富田理恵<br>担当形態：<br>単独 |
| 科目   | 教科及び教科の指導法に関する科目           |             |                           |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項<br>英語コミュニケーション |             |                           |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。<br/>自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。</p>   |                            |             |                           |
| <p>授業の概要</p> <p>英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成します。</p>   |                            |             |                           |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：Getting to Know Each Other（互いに知り合う）<br/>第2回：Talking about the Weekend（週末の話）<br/>第3回：Inviting / Making Appointments（招待／予約）<br/>第4回：Asking a Favor（ものを頼む）<br/>第5回：Appreciating / Apologizing（感謝／謝罪）<br/>第6回：Asking for Repetition（もう一度行ってください）<br/>第7回：Expressions for Small Talk（短い話をする）<br/>第8回：Asking and Answering Questions（質問と答え）<br/>第9回：Telling Intentions（こちらの意図を伝える）<br/>第10回：Asking for Permission / Making Suggestions（許可を求める／示唆する）<br/>第11回：Describing People / Expressing Likes and Dislikes（人物描写／好悪の表現）<br/>第12回：Survival English（危機を乗り切る）<br/>第13回：Expressions for Negotiation and Shopping（交渉と買い物での表現）<br/>第14回：Phone Calls / Texting（電話／メール）<br/>第15回：Exchanging Ideas and Opinions（意見交換）</p> |                            |             |                           |
| <p>定期試験</p>  |                            |             |                           |
| <p>テキスト</p> <p><i>Activator Next</i> 大学生の自信を促す英語コミュニケーション<br/>塩澤正 / Adam Martinelli 著 金星堂</p>  |                            |             |                           |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>   |                            |             |                           |
| <p>学生に対する評価</p> <p>Class Performance（授業での様子） 30% Vocabulary Test（単語テスト） 10%</p>  |                            |             |                           |

Presentation (プレゼンテーション) 10% Exam (試験) 50%

|   |                            |             |                |
|---|----------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：<br>英語コミュニケーションⅡ  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目       | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>富田理恵 |
|   |                            |             | 担当形態：<br>単独    |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目           |             |                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>英語コミュニケーション |             |                |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                            |             |                |
| 単独で英語圏へ短期の語学留学に出かけ、ホストファミリーと生活し、観光もして無事帰国できる英語力を身に着ける。また日本に観光に来た外国人に地域の魅力を紹介し、案内できる英語力を身につける。 |                            |             |                |
| 授業の概要   |                            |             |                |
| 飛行機に乗り、入国審査を通過し、ホストファミリーと人間関係を築くことができる実践的な英語を学ぶ。また、実際に岐阜をどう外国人に理解してもらうか、構想を組み立てる。             |                            |             |                |
| 授業計画  |                            |             |                |
| 第1回：Going abroad Preparation (世界に出ていく 準備)   |                            |             |                |
| 第2回：Going abroad In the Airplane (世界に出ていく 空港で)  |                            |             |                |
| 第3回：Going abroad From the Airport to the Host Family (世界に出ていく 空港からホストファミリーのもとへ)               |                            |             |                |
| 第4回：Going abroad Greetings at home and school (世界に出ていく 家と学校であいさつ)                             |                            |             |                |
| 第5回：Going abroad Speech (世界に出ていく 話す)  |                            |             |                |
| 第6回：Going abroad Sightseeing (世界に出ていく 観光)   |                            |             |                |
| 第7回：Going abroad Activities (世界に出ていく 活動)  |                            |             |                |
| 第8回：Going abroad Shopping (世界に出ていく 買い物)   |                            |             |                |
| 第9回：Going abroad Safe Return (世界に出ていく 安全に帰国)  |                            |             |                |
| 第10回：Review of Going abroad (世界に出ていく 復習)  |                            |             |                |
| 第11回：Welcome to Japan What to show (日本によろこそ 何を紹介するか)  |                            |             |                |
| 第12回：Welcome to Japan How to show (日本によろこそ どう紹介するか)   |                            |             |                |
| 第13回：Welcome to Japan Local Historical Heritage (日本によろこそ 地元の史跡)                               |                            |             |                |
| 第14回：Welcome to Japan Local food and events (日本によろこそ 地元の食材と行事)                                |                            |             |                |
| 第15回：Review of Welcome to Japan (日本によろこそ 復習)  |                            |             |                |
| テキスト  |                            |             |                |
| 単語でカンタン！旅行英会話 改訂版 プレスワーズ (著) Jリサーチ出版  |                            |             |                |
| 参考書・参考資料等   |                            |             |                |
| 30 Things Japanese Donald Keene, 鷹書房弓プレス (1993/4/1)   |                            |             |                |

学生に対する評価

Class Performance (授業での様子) 30% Vocabulary Test (単語のテスト) 20%

Two Reports (二つのレポート) 40% Presentation (プレゼンテーション) 10%

|   |                      |             |                       |
|---|----------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>異文化理解   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>アンドリュー・デュアー |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独           |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項<br>異文化理解 |             |                       |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・多文化共生社会に参画するための知識を身につく。</li> <li>・多様な文化的背景を持つ人々と交流したときに文化の位置づけと多様性および異文化交流の意義と楽しみを理解する。</li> <li>・英語圏の歴史・社会・国民性の文化的背景を理解する。</li> </ul>   |                      |             |                       |
| <p>授業の概要</p> <p>現代生活の中で異文化と接する機会が増えていて、グローバルな視点が必要となっている。この科目ではコミュニケーション力を育成する観点から、外国語やその文化的背景の多様性、文化とアイデンティティの関係性、そして多文化社会に生きるときの課題について学習する。異文化を受容することはどういうことか、多文化共生社会をどう作るかなどの課題を考える。また、「異文化理解」の落とし穴について批判的に考察します。あわせて、英語圏の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、外国語科を担当する教育者に必要な知見と教養を身につける。</p>                              |                      |             |                       |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：文化は何のためにある？</p> <p>第2回：自分に見える文化、文化に見える自分</p> <p>第3回：文化の学習と進化</p> <p>第4回：人の移動と文化の伝達</p> <p>第5回：現代になお生きる古典文化と伝統文化</p> <p>第6回：ことばと文化の関係</p> <p>第7回：英語圏の文化</p> <p>第8回：子どもと異文化</p> <p>第9回：ステレオタイプと文化</p> <p>第10回：インターネットと文化の標準化</p> <p>第11回：宗教と文化</p> <p>第12回：カナダが提唱した多文化主義</p> <p>第13回：多文化共生社会</p> |                      |             |                       |

|   |
|---|
| 第14回：多文化教育と異文化教育<br>第15回：まとめ：日本の中の異文化<br>定期試験 |
| テキスト<br>・配布資料                                 |
| 参考書・参考資料等<br>・エドワード・T・ホール著、「沈黙のことば」           |
| 学生に対する評価<br>・定期試験70% ディスカッションの参加態度30%         |

|  |                      |             |                       |
|--|----------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>異文化コミュニケーション   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>アンドリュー・デュアー |
|  |                      |             | 担当形態：<br>単独           |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目     |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教科に関する専門的事項<br>異文化理解 |             |                       |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「文化」をめぐる問題について、さまざまな角度から考察します。特に異文化理解や多文化共生など、世界にとって緊急の課題が「文化」をめぐることで検討されているなか、「文化」の捉え方および異文化の人々のコミュニケーションの基本を理解し、応用できるようにします。また、コミュニケーションのプロセスを理解したうえで、異文化の人同士のコミュニケーションに必要な見識を学ぶ。</p>   |                      |             |                       |
| <p>授業の概要</p> <p>導入の後、昨今の日本や世界で論議されている「多文化主義」、「多文化共生」について再検討し、そのなかで、他者とのコミュニケーションでは文化的な背景を理解する必要がある。それらに基づき、「文化」の捉え方をめぐるさまざまな問題について、受講生の立場から自分自身の考えを提示できるように試みます。</p>   |                      |             |                       |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：文化とは何か</p> <p>第2回：文化は「沈黙のことば」</p> <p>第3回：文化の学習と伝承</p> <p>第4回：言語と文化</p> <p>第5回：文化とアイデンティティ</p> <p>第6回：コミュニケーションとは何か</p> <p>第7回：インターネットと「世界規模の村」</p> <p>第8回：メディアに見える文化</p> <p>第9回：リベラリズムとトライバリズム</p> <p>第10回：多文化主義</p> <p>第11回：多文化教育</p> <p>第12回：語学と異文化理解</p> <p>第13回：異文化理解と生活環境</p> <p>第14回：異文化と日本人</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>定期試験</p> |                      |             |                       |

テキスト

- ・配布資料

参考書・参考資料等

- ・エドワード・T・ホール著、「沈黙のことば」
- ・スティーブン・ピンカー著「心の仕組み」

学生に対する評価

- ・定期試験80% ディスカッションの参加態度20%

|   |                        |             |                  |
|---|------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>中学校英語科教育法1  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                        |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目       |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                        |             |                  |
| 中学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。また、英語で授業を行うことができる英語運用能力を身に付ける。 |                        |             |                  |
| 授業の概要   |                        |             |                  |
| 中学校の学習指導要領及び教科書について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。             |                        |             |                  |
| 授業計画  |                        |             |                  |
| 第1回：オリエンテーション / 外国語教育の現状  |                        |             |                  |
| 第2回：外国語教育の目的と意義   |                        |             |                  |
| 第3回：教育課程と学習指導要領   |                        |             |                  |
| 第4回：英語教師論   |                        |             |                  |
| 第5回：英語教授法   |                        |             |                  |
| 第6回：第二言語習得理論  |                        |             |                  |
| 第7回：コミュニケーション能力の育成  |                        |             |                  |
| 第8回：「聞くこと」の指導   |                        |             |                  |
| 第9回：「話すこと」の指導   |                        |             |                  |
| 第10回：「読むこと」の指導  |                        |             |                  |
| 第11回：「書くこと」の指導  |                        |             |                  |
| 第12回：指導法の発表と議論（1）「聞くこと」「話すこと」   |                        |             |                  |
| 第13回：指導法の発表と議論（2）「読むこと」「書くこと」   |                        |             |                  |
| 第14回：学習到達目標、年間指導計画、単元計画、指導計画の作成   |                        |             |                  |
| 第15回：まとめ  |                        |             |                  |
| 定期試験 レポート   |                        |             |                  |
| テキスト  |                        |             |                  |
| 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』                                       |                        |             |                  |
| 東京書籍『NEW HORIZON English Course 1, 2, 3』                                      |                        |             |                  |
| 参考書・参考資料等   |                        |             |                  |
| 指導用参考資料等（文部科学省ウェブページ）   |                        |             |                  |

学生に対する評価

指導法の発表（30%）、各授業の振り返りレポート（30%）、レポート課題（40%）により評価する。

|   |                        |             |                  |
|---|------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>中学校英語科教育法2  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                        |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目       |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                        |             |                  |
| 中学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。また、英語で授業を行うことができる英語運用能力を身に付ける。   |                        |             |                  |
| 授業の概要   |                        |             |                  |
| 中学校における5領域の指導に関する知識と技能を身に付けるとともに、複数の技能を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。 |                        |             |                  |
| 授業計画  |                        |             |                  |
| 第1回：オリエンテーション / 育成すべき資質・能力  |                        |             |                  |
| 第2回：ICT活用やALTとのチーム・ティーチングの目的と評価   |                        |             |                  |
| 第3回：効果的な語彙指導や辞書指導の在り方   |                        |             |                  |
| 第4回：コミュニケーション能力の育成と異文化理解  |                        |             |                  |
| 第5回：協同学習を取り入れた指導法と留意点   |                        |             |                  |
| 第6回：授業計画1 学習者のニーズに合った教材選択、ICT機器の効果的な使用  |                        |             |                  |
| 第7回：授業計画2 教科書や副教材を用いた言語活動、技能統合型タスク  |                        |             |                  |
| 第8回：授業計画3 学習指導案作成   |                        |             |                  |
| 第9回：授業計画4 評価計画  |                        |             |                  |
| 第10回：中学1年生 模擬授業準備   |                        |             |                  |
| 第11回：中学1年生 模擬授業発表と議論  |                        |             |                  |
| 第12回：中学2年生 模擬授業準備   |                        |             |                  |
| 第13回：中学2年生 模擬授業発表と議論  |                        |             |                  |
| 第14回：中学3年生 模擬授業準備   |                        |             |                  |
| 第15回：中学3年生 模擬授業発表と議論、まとめ  |                        |             |                  |
| 定期試験：レポート   |                        |             |                  |
| テキスト  |                        |             |                  |
| 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』   |                        |             |                  |
| 東京書籍『NEW HORIZON English Course 1, 2, 3』  |                        |             |                  |
| 参考書・参考資料等   |                        |             |                  |

指導用参考資料等（文部科学省ウェブページ）

学生に対する評価

模擬授業の発表（30%）、各授業の振り返りレポート（30%）、レポート課題（40%）により評価する。

|  |                        |             |                  |
|--|------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>中学校英語科教育法3   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|  |                        |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目  | 教科及び教科の指導法に関する科目       |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                        |             |                  |
| 中学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。また、教育実習に備えて、授業を实践できる力を養う。 |                        |             |                  |
| 授業の概要  |                        |             |                  |
| 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領の内容を理解するとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。               |                        |             |                  |
| 授業計画   |                        |             |                  |
| 第1回：オリエンテーション / 小・中・高の外国語教育の目標   |                        |             |                  |
| 第2回：小学校外国語活動・外国語科における指導と評価、小・中の連携  |                        |             |                  |
| 第3回：高等学校外国語科における指導と評価、中・高の連携   |                        |             |                  |
| 第4回：授業観察1 小学校  |                        |             |                  |
| 第5回：授業観察2 中学校  |                        |             |                  |
| 第6回：授業観察3 高等学校   |                        |             |                  |
| 第7回：授業計画1 単元計画、評価計画作成  |                        |             |                  |
| 第8回：授業計画2 学習指導案作成  |                        |             |                  |
| 第9回：模擬授業1 [聞くこと、話すことを中心とした指導] 準備   |                        |             |                  |
| 第10回：模擬授業1 [聞くこと、話すことを中心とした指導] 発表と議論                                     |                        |             |                  |
| 第11回：模擬授業2 [読むことを中心とした指導] 準備   |                        |             |                  |
| 第12回：模擬授業2 [読むことを中心とした指導] 発表と議論  |                        |             |                  |
| 第13回：模擬授業3 [書くことを中心とした指導] 準備   |                        |             |                  |
| 第14回：模擬授業3 [書くことを中心とした指導] 発表と議論  |                        |             |                  |
| 第15回：まとめ   |                        |             |                  |
| 定期試験：レポート  |                        |             |                  |
| テキスト   |                        |             |                  |
| 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』                                  |                        |             |                  |
| 東京書籍『NEW HORIZON English Course 1, 2, 3』                                 |                        |             |                  |
| 参考書・参考資料等  |                        |             |                  |
| 指導用参考資料等（文部科学省ウェブページ）  |                        |             |                  |

学生に対する評価

模擬授業の発表（30%）、各授業の振り返りレポート（30%）、レポート課題（40%）により評価する。

|   |                        |             |                  |
|---|------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>中学校英語科教育法4  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>広瀬 八重子 |
|   |                        |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目       |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） |             |                  |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>中学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。また、教育実習に備えて、授業を实践できる力を養う。  |                        |             |                  |
| 授業の概要<br>教育実習で実際に授業を行うために必要な知識と技能を身に付け、授業分析を通して、指導や評価の在り方について理解を深める。  |                        |             |                  |
| 授業計画<br>第1回：英語科教育法1～3の振り返り<br>第2回：カリキュラム、シラバス、単元計画の役割<br>第3回：授業計画と教材、学習プリント、テストとの関係<br>第4回：観点別学習状況の評価に基づく各単元の評価規準の設定<br>第5回：言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）<br>第6回：生徒の特性や習熟度に応じた指導の在り方<br>第7回：模擬授業1及び授業分析、改善案の検討<br>第8回：模擬授業2及び授業分析、改善案の検討<br>第9回：模擬授業3及び授業分析、改善案の検討<br>第10回：模擬授業4及び授業分析、改善案の検討<br>第11回：テスト問題作成演習1<br>第12回：テスト問題作成演習2<br>第13回：生徒とのコミュニケーション ケース・スタディ<br>第14回：目指す教師像、育てたい学習者像、目指す授業デザイン 発表と議論<br>第15回：まとめ<br>定期試験：レポート |                        |             |                  |
| テキスト<br>文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』<br>東京書籍『NEW HORIZON English Course 1, 2, 3』   |                        |             |                  |
| 参考書・参考資料等<br>指導用参考資料等（文部科学省ウェブページ）  |                        |             |                  |

学生に対する評価

模擬授業の発表（30%）、各授業の振り返りレポート（30%）、レポート課題（40%）により評価する。

|  |                      |             |                            |
|--|----------------------|-------------|----------------------------|
| 授業科目名：<br>カウンセリング論   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：草岡 章大<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 大学が独自に設定する科目         |             |                            |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 大学が独自に設定する科目         |             |                            |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) カウンセリングの代表的な理論と技法を理解し説明できる。</p> <p>2) 予防・治療・予後的カウンセリングの3機能を理解し説明できる。</p> <p>3) 対人コミュニケーション、関係性の重要性を理解し他者支援に役立てることができる。</p>   |                      |             |                            |
| <p>授業の概要</p> <p>「受容」「傾聴」「共感」のカウンセリング・マインドの習得は、中学・高校等の学校現場で、生徒だけでなく保護者や地域の方々との親密な関係づくりに大切な要素です。カウンセリング論では、講義を通してカウンセリングの基礎知識を身に付け、ロールプレイを通して他者の気持ちを想像する力を培います。</p>  |                      |             |                            |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の進め方など</p> <p>第2回：カウンセリング・マインド：「受容・傾聴・共感」の基本姿勢など、子どもとかかわる心、他者を想像する力の基本</p> <p>第3回：マイクロカウンセリング：「閉ざされた質問」「開かれた質問」など</p> <p>第4回：ロジャーズの理論と技法①：来談者中心療法やグループエンカウンターなど</p> <p>第5回：ロジャーズの理論と技法②：セラピストの三条件</p> <p>第6回：フロイトの理論と技法：無意識、適応規制、精神力動など</p> <p>第7回：行動療法：認知行動療法・論理療法など</p> <p>第8回：カウンセリングの実際①：ケースをロールプレイ、カウンセラー体験（例；いじめ・不登校の子ども、モンスターペアレントなどへの接し方）</p> <p>第9回：カウンセリングの実際②：ケースをロールプレイ、クライアント体験（例；いじめ・不登校の子ども、モンスターペアレントなどを演じて他者理解を図る）</p> <p>第10回：遊戯療法：子どもの心の世界の理解</p> <p>第11回：グループエンカウンター体験 ①：グループでのコミュニケーションが他者理解を促進させることを体験</p> <p>第12回：グループエンカウンター体験 ②：グループでのコミュニケーションを通して他者理解とともに自己理解も促進されることを体験</p> <p>第13回：予防と予後のカウンセリング：ストレスマネジメントについて</p> <p>第14回：発達障害の理解：自閉症スペクトラムやADHDなど</p> |                      |             |                            |

第15回：まとめとふりかえり：カウンセリング・マインドは対人コミュニケーションには欠かせないこと等をふりかえる。

定期試験

テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

参考書・参考資料等

カウンセリング入門・江川成（著）・北樹出版・ISBN：9784779301797

セラピスト入門・東豊（著）・日本評論社・ISBN:4535580871

その他、適宜紹介します。

学生に対する評価

授業への参加態度（50%）・提出物（レポート・小テスト）（50%）を基本として総合評価します。

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>日本国憲法   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目    | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>山邨 俊英 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 日本国憲法                   |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義のねらいと到達目標は次の通りである。①日本国憲法が規定する基本的人権の種類・内容や体系とともに、人権が「公共の福祉」により制約されることの意味および程度を理解する。②「国権」の三権を構成する、国会、内閣、裁判所がもつ役割を再確認するとともに、権力分立の現代的意義を理解する。③現代の様々な政治・社会問題について、憲法の視点から理解し考える力を養う。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の基本原理は、①国民主権、②基本的人権の尊重、③平和主義であることは広く知られているところである。本講義では、基本的人権について、その種類と内容、人権保障の程度と対象等について整理するとともに、私たちの生活へのさまざまな関わりについて判例等を通して概説する。また、議院内閣制や地方自治制度の枠組みを理解し、国民主権・住民自治等の理念に基づく民主主義政治のあり方についても考えていきたい。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・日本国憲法の制定過程</p> <p>第2回：憲法の基本原理・平和主義</p> <p>第3回：国民主権・象徴天皇制・選挙制度</p> <p>第4回：立法権と国会</p> <p>第5回：行政権と内閣</p> <p>第6回：司法権と裁判所</p> <p>第7回：人権とは何か</p> <p>第8回：包括的基本権</p> <p>第9回：平等原則</p> <p>第10回：精神的自由権① 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回：精神的自由権② 表現の自由</p> <p>第12回：経済的自由権</p> <p>第13回：社会権</p> <p>第14回：人身の自由と刑事手続き上の権利</p> <p>第15回：立憲主義と憲法保障</p> |                         |             |                 |

|  |
|--|
| 定期試験   |
| テキスト<br>①『憲法を読み解く』 ②渋谷秀樹 ③有斐閣 ④978-4-641-22810-8 ⑤1980円（税込）<br>この教科書は、注釈書（コンメンタール）と呼ばれるものであり、日本国憲法の条文を最初の条文から1つひとつ解説していく形式になっている。授業で取り扱われた条文については、授業中又は自主学習において、必ず解説に目を通してもらいたい。 |
| 参考書・参考資料等<br>講義の際に適宜紹介する。  |
| 学生に対する評価<br>定期試験（全体の理解度）100%   |

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育講義  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>田中 克実 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 体育                      |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツを多面的に知ることをねらいとし、スポーツと健康の関係について理解し、運動未実施者を減らすための、取組について各々が提案できることを到達目標とする。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>今日、スポーツは私達の生活の中で非常に大きな存在を占めている。スポーツは、精神的、身体的、社会的に、私たちの生活に潤いを与えてくれる。スポーツ庁は、運動未実施者を減らすため、各政策を掲げている。スポーツを取巻く多様な視点を学修し、スポーツの継承・発展を支える知識を高める。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：スポーツとは何か</p> <p>第3回：スポーツのもつ可能性（健康との関連も含め）</p> <p>第4回：スポーツ基本計画（スポーツ庁）</p> <p>第5回：スポーツ推進計画（各都道府県の比較）</p> <p>第6回：スポーツ倫理</p> <p>第7回：スポーツと障がい者</p> <p>第8回：子どもから見たスポーツの存在意義（健康的な心身の形成）</p> <p>第9回：リーダーシップ</p> <p>第10回：スポーツにおけるプレイの生み出す可能性（生涯スポーツに向けた観点から）</p> <p>第11回：スポーツにおける競争の位置づけ</p> <p>第12回：技術指導から見たスポーツ・体育</p> <p>第13回：スポーツと栄養</p> <p>第14回：部活動と総合型地域スポーツクラブ</p> <p>第15回：重要ポイントのまとめ</p> <p>定期試験</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>授業内容資料を「クラスルーム」にて配信。</p> <p>また、授業プリントを配布する。</p>  |                         |             |                 |

参考書・参考資料等

健康スポーツの科学（大修館書店）

教養としての体育原理（大修館書店）

学生に対する評価

中間レポート30% 定期試験70%とし、

60点(100点満点)以上を評価対象とし、59点以下は不合格とする。

|  |                         |                 |                 |
|--|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>桑原 信治 |
|  |                         |                 | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：スポーツ・レクリエーション</p> <p>授業の目的:この授業では、色々なスポーツに取り組み、技術の向上、集団行動における協調性や助け合いの心を育むことを目的とします。</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力を高めるとともに、マナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>   |                         |                 |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>この授業では、スポーツの楽しさや醍醐味を味わうことができ、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指し、楽しく体を動かすことを重視した授業を展開する。また、一つの種目だけに専念するのではなく、生涯スポーツに適した、色々なスポーツレクリエーションを中心に展開する。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（西体育館に集合し、授業の概要等について説明）</p> <p>第2回 体力測定（自分の体力を把握する）</p> <p>第3回 インディアカ①基本、ルールの理解</p> <p>第4回 インディアカ②ゲーム</p> <p>第5回 ソフトバレー①基本、ルールの理解</p> <p>第6回 ソフトバレー②ゲーム</p> <p>第7回 ミニテニス①基本、ルールの理解</p> <p>第8回 ミニテニス②ゲーム</p> <p>第9回 バドミントン①基本、ルールの理解</p> <p>第10回 バドミントン②ゲーム(シングルス)</p> <p>第11回 バドミントン③ゲーム(ダブルス)</p> <p>第12回 アルティメット①ゲーム</p> <p>第13回 キンボール①基本、ルールの理解</p> <p>第14回 キンボール②ゲーム</p> <p>第15回 各種目のルールの理解等について（小テスト）</p> |                         |                 |                 |
| テキスト   |                         |                 |                 |

実施する種目に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト（公益財団法人日本レクリエーション協会）  
レクリエーションスポーツ種目全書（遊戯社）

学生に対する評価

通常授業中でのルール、戦術の理解、技能習得等平常点で評価する。

評価内容は次の通りである。

- ・各種目の技能習得、積極的な参加度等（60%）
- ・小テスト（習得度、ルール、戦術の理解等）（40%）

総合評価100%で評価する。

\*評価基準の詳細については初回の授業で説明する。

|   |                         |                 |                                |
|---|-------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>磯辺 和正<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 体育                      |                 |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：テニス</p> <p>授業の目的:自分自身の体を活動的に発達させることを柱に、仲間とコミュニケーションを図り体力の維持増進を目的とする</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力を高めるとともに、マナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>   |                         |                 |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は生涯スポーツに適した種目及びレクリエーションスポーツを中心に展開する。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業科目】</p> <p>日本スポーツ協会公認テニスコーチ2資格。国民体育大会テニス競技の監督経験を持ち、大学運動部の監督や岐阜市スポーツ教室の講師でもある。全国レベルから初心者までの指導経験を授業に生かしている。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（西体育館）体育実技の概要、第2回以降の注意事項などの説明</p> <p>第2回 ラケット操作とボール感覚の理論と実践 簡単なボレーからミニテニス</p> <p>第3回 基本技能の理論と実践1 ストローク</p> <p>第4回 基本技能の理論と実践2 ストロークとボレーおよびスマッシュの組み合わせ</p> <p>第5回 基本技能の理論と実践3 サーブとサーブからのラリー</p> <p>第6回 ゲームにおける基本技能の理論と実践1 初歩的なダブルスゲームの実施</p> <p>第7回 ゲームにおける基本技能の理論と実践2 ダブルスにおけるネットプレー</p> <p>第8回 ゲームにおける基本技能の理論と実践3 初歩的なシングルスゲームの実施</p> <p>第9回 課題練習とゲーム1 ダブルスの戦術とフォーメーション</p> <p>第10回 課題練習とゲーム2 ダブルスのリーグ戦</p> <p>第11回 課題練習とゲーム3 ダブルスのトーナメント</p> <p>第12回 課題練習とゲーム4 シングルの戦術とフォーメーション</p> <p>第13回 課題練習とゲーム5 シングルのトーナメント</p> |                         |                 |                                |

第14回 技能テスト ショット別技能テスト

第15回 技能テストとまとめ ゲームにおける技能テストおよびまとめ

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

受講態度70%、ルールの理解度・技能30%。

与えられた課題に対する取り組み方、道具の準備、片付けなど、状況に応じた行動が積極的にできるかを重視して評価する。

|  |                         |                 |                                |
|--|-------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>小林 和典<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：トレーニング</p> <p>到達目標：この授業では、色々なスポーツに取り組み、技術の向上、集団行動における協調性や助け合いの心を育むことをねらいとする。また、習熟レベルの違いを相互にサポートしあうことによりレベルアップをはかり、色々なスポーツ楽しめるレベルに達成することを目標とする。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は生涯スポーツに適した種目及びレクリエーションスポーツを中心に展開する。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力テスト</p> <p>第3回 トレーニングルームの使用説明</p> <p>第4回 ストレッチ方法および器具を使用しない筋力トレーニング</p> <p>第5回 マシンを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第6回 マシンを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第7回 ダンベルを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第8回 ダンベルを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第9回 バーベルを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第10回 バーベルを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第11回 室内バイクおよびトレッドミルを使用したトレーニング（基礎）</p> <p>第12回 室内バイクおよびトレッドミルを使用したトレーニング（応用）</p> <p>第13回 筋力のサーキットトレーニング（基礎）</p> <p>第14回 筋力のサーキットトレーニング（応用）</p> <p>第15回 まとめ</p> |                         |                 |                                |
| <p>テキスト</p> <p>プリントを配布します。</p>   |                         |                 |                                |

参考書・参考資料等

適宜資料を配布

学生に対する評価

技術の習得度30%、態度（積極性・協調性）40%、提出物30%

|  |                         |                 |                                |
|--|-------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>竹内 隆司<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バスケットボール</p> <p>授業の目的:バスケットボールを通して、個人技能やチームプレーを高めながら、自分自身の体を活動的に発達させることを柱に、仲間とコミュニケーションを図り体力や健康の維持増進を目的とする</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力と体力を高めるとともに、チームプレー及びチームマネジメントの向上を図り、生涯スポーツの資質につながるマナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。バスケットボールの、基本的な個人技能や簡単なチーム戦術を使ったゲームを中心に展開する。</p>   |                         |                 |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（東キャンパス体育館）体育実技の概要、第2回以降の注意事項などの説明</p> <p>第2回 試しのゲーム</p> <p>第3回 基礎練習① 個人技能・ミニゲーム ランプレイの実現に向けて、パスやレイアップ技能の向上を図る練習やゲーム</p> <p>第4回 基礎練習② 個人技能・ミニゲーム ドリブルを加えたプレイの実現に向けて、ドリブルやドリブルシュートの技能練習や、ドリブルを駆使しながらの対人ゲーム</p> <p>第5回 基礎練習③ チームプレー・ミニゲーム マンツーマンやゾーンといったディフェンスの仕方を確認し、それぞれに応じた攻守の仕方を練習、ハーフことのゲームでの試し</p> <p>第6回 基礎練習④ チームプレー・ゲーム 攻めの役割とディフェンスの仕方をチームで決め出し、ゲームを通してチームに合った戦術を探る</p> <p>第7回 リーグ戦① 自チームの攻守のバランスに修正を加え、ゲームでその成果を試す</p> <p>第8回 リーグ戦② 自チームの攻守の良さを生かしつつ、相手チームの攻守のスタイルに応じたチームプレイの修正</p> <p>第9回 リーグ戦③ 基礎練習を通して、培ってきた攻守のよさを勝負にこだわったゲームの中で発揮する</p> |                         |                 |                                |

|   |
|---|
| <p>第10回 リーグ戦④ リーグ戦③の中で浮き彫りになった自分たちのチームの課題を解消する方法を探り、課題解決に向けた試行錯誤してみる</p> <p>第11回 3×3ゲーム体験 3×3のゲームについて学び、実際にゲーム実践をしてみる</p> <p>第12回 当日編成チームでの3×3ゲーム 当日編成されたチームでもコミュニケーションをとって、ハーフコートゲームに参加できるようにする</p> <p>第13回 当日編成チームでのバスケットボールゲーム① 当日編成されたチームでもコミュニケーションをとって、ゲームに参加できるようにする</p> <p>第14回 当日編成チームでのバスケットボールゲーム② 当日編成されたチームでも、攻守の役割やゲームプランをもってゲームを行う</p> <p>第15回 ゲームにおける技能及びゲーム参加率観察およびまとめ 当日編成されたチーム内での、ゲーム中の技能状態とチームへのコミュニケーション状況の確認</p> |
| <p>テキスト</p> <p>適宜資料を配布する。</p>   |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>  |
| <p>学生に対する評価</p> <p>受講態度50%、チーム運営やチームプレーに対する貢献度20%、多くの仲間とコミュニケーションをとりチーム参加の実現度20%、ルールの理解度・技能10%。</p> <p>与えられた課題に対する取り組み方、個人やチームの上達に向けた態度、用具の準備・片付けなど、状況に応じた行動が積極的にできるかを重視して評価する。</p>   |

|  |                         |                 |                 |
|--|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>田中 克実 |
|  |                         |                 | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バドミントン</p> <p>到達目標：バドミントンを生涯スポーツとして身につけることを第一の目的とし、スポーツを通じて社会性と体力の向上を目指す。</p> <p>バドミントンのルールを理解し、試合の中で色々な技術や戦術を使いながらラリーを続けられるようになる。結果として仲間と楽しくゲームが出来るようになる。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は生涯スポーツに適した種目及びレクリエーションスポーツを中心に展開する。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 基本的な打ち方①（ドライブ、ヘアピン）</p> <p>第3回 基本的な打ち方②（ハイクリアー）</p> <p>第4回 簡易ゲーム</p> <p>第5回 シングルのルールを理解する</p> <p>第6回 シングルスゲームの実践（練習試合）</p> <p>第7回 シングルスゲームの実践（リーグ戦）</p> <p>第8回 シングルスゲームの実践（トーナメント戦）</p> <p>第9回 ダブルスのルールを理解する</p> <p>第10回 ダブルスゲームの実践（練習試合）</p> <p>第11回 ダブルスゲームの実践（リーグ戦）</p> <p>第12回 ダブルスゲームの実践（トーナメント戦）</p> <p>第13回 シングルスおよびダブルスゲームの実践（グループ分け）</p> <p>第14回 シングルスおよびダブルスゲームの実践（リーグ戦）</p> <p>第15回 シングルスおよびダブルスのゲーム実践（トーナメント戦）</p> |                         |                 |                 |
| <p>テキスト</p> <p>必要に応じ指示する</p>   |                         |                 |                 |

参考書・参考資料等

必要に応じ指示する

学生に対する評価

授業への態度・取り組み（50%）と技能（授業内での体力測定や課題など）（50%）で成績の評価を行う。評価基準の詳細については初回の授業で説明する。

|   |                         |                 |                  |
|---|-------------------------|-----------------|------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技A   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>柿島 新太郎 |
|   |                         |                 | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 体育                      |                 |                  |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バレーボール</p> <p>到達目標：①バレーボール競技についての基本的な個人技術の構造、競技特性を理解することができる。</p> <p>②バレーボール競技に求められる集団技能を発揮するために、チームワークを理解し、チームプレーを実践することができる。</p> <p>③バレーボール競技の状況に応じたプレーの判断と実行を主体的に実践することができる。</p> <p>④バレーボール競技のゲーム特性を理解し、状況に応じた練習計画を立案する。。</p>   |                         |                 |                  |
| <p>授業の概要</p> <p>バレーボール競技は幼児から高齢者まで幅広く参加できるスポーツである。競技スポーツとしては6人制や9人制、ビーチバレーなどの種目があり、また職場での気晴らしやレクレーションにも導入されている。さらに近年注目を集める障害者スポーツではデフバレーやシッティングバレーなども徐々に普及しつつある。本講義では各種目の基本となる6人制バレーボール競技を教材として扱う。</p>  |                         |                 |                  |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンスとして受講に際しての諸注意と心構え。</p> <p>第2回 試しのゲーム</p> <p>第3回 オーバーハンドパス</p> <p>第4回 アンダーハンドパス</p> <p>第5回 第1回 小テスト パス技能テスト</p> <p>第6回 オーバーハンドパスの応用</p> <p>第7回 アンダーハンドパスの応用</p> <p>第8回 第2回 小テスト 連続したパス技能</p> <p>第9回 サーブの基本</p> <p>第10回 発展的なサーブ</p> <p>第11回 第3回 小テスト サーブ技能</p> <p>第12回 アタックの基本</p> <p>第13回 発展的なアタック</p> |                         |                 |                  |

第14回 第4回 小テスト アタック技能

第15回 まとめのゲーム

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて、資料を配布する。

学生に対する評価

実技テスト 60点 小テスト 15点 × 4回

意欲態度 40点

合計100点として評価します。

|  |                         |                 |                                |
|--|-------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>桑原 信治<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：スポーツ・レクリエーション</p> <p>授業の目的:この授業では、色々なスポーツに取り組み、技術の向上、集団行動における協調性や助け合いの心を育むことを目的とします。</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力を高めるとともに、マナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>   |                         |                 |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>この授業では、スポーツの楽しさや醍醐味を味わうことができ、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指し、楽しく体を動かすことを重視した授業を展開する。また、一つの種目だけに専念するのではなく、生涯スポーツに適した、色々なスポーツレクリエーションを中心に展開する。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（西体育館に集合し、授業の概要等について説明）</p> <p>第2回 体力測定（自分の体力を把握する）</p> <p>第3回 インディアカ①基本、ルールの理解</p> <p>第4回 インディアカ②ゲーム</p> <p>第5回 ソフトバレー①基本、ルールの理解</p> <p>第6回 ソフトバレー②ゲーム</p> <p>第7回 ミニテニス①基本、ルールの理解</p> <p>第8回 ミニテニス②ゲーム</p> <p>第9回 バドミントン①基本、ルールの理解</p> <p>第10回 バドミントン②ゲーム(シングルス)</p> <p>第11回 バドミントン③ゲーム(ダブルス)</p> <p>第12回 アルティメット①ゲーム</p> <p>第13回 キンボール①基本、ルールの理解</p> <p>第14回 キンボール②ゲーム</p> <p>第15回 各種目のルールの理解等について（小テスト）</p> |                         |                 |                                |
| テキスト   |                         |                 |                                |

実施する種目に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト（公益財団法人日本レクリエーション協会）  
レクリエーションスポーツ種目全書（遊戯社）

学生に対する評価

通常授業中でのルール、戦術の理解、技能習得等平常点で評価する。

評価内容は次の通りである。

- ・各種目の技能習得、積極的な参加度等（60%）
- ・小テスト（習得度、ルール、戦術の理解等）（40%）

総合評価100%で評価する。

\*評価基準の詳細については初回の授業で説明する。

|   |                         |                 |                 |
|---|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>磯辺 和正 |
|   |                         |                 | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 体育                      |                 |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：テニス</p> <p>授業の目的:自分自身の体を活動的に発達させることを柱に、仲間とコミュニケーションを図り体力の維持増進を目的とする</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力を高めるとともに、マナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>   |                         |                 |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は生涯スポーツに適した種目及びレクリエーションスポーツを中心に展開する。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業科目】</p> <p>日本スポーツ協会公認テニスコーチ2資格。国民体育大会テニス競技の監督経験を持ち、大学運動部の監督や岐阜市スポーツ教室の講師でもある。全国レベルから初心者までの指導経験を授業に生かしている。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（西体育館）体育実技の概要、第2回以降の注意事項などの説明</p> <p>第2回 ラケット操作とボール感覚の理論と実践 簡単なボレーからミニテニス</p> <p>第3回 基本技能の理論と実践1 ストローク</p> <p>第4回 基本技能の理論と実践2 ストロークとボレーおよびスマッシュの組み合わせ</p> <p>第5回 基本技能の理論と実践3 サーブとサーブからのラリー</p> <p>第6回 ゲームにおける基本技能の理論と実践1 初歩的なダブルスゲームの実施</p> <p>第7回 ゲームにおける基本技能の理論と実践2 ダブルスにおけるネットプレー</p> <p>第8回 ゲームにおける基本技能の理論と実践3 初歩的なシングルスゲームの実施</p> <p>第9回 課題練習とゲーム1 ダブルスの戦術とフォーメーション</p> <p>第10回 課題練習とゲーム2 ダブルスのリーグ戦</p> <p>第11回 課題練習とゲーム3 ダブルスのトーナメント</p> <p>第12回 課題練習とゲーム4 シングルの戦術とフォーメーション</p> <p>第13回 課題練習とゲーム5 シングルのトーナメント</p> |                         |                 |                 |

第14回 技能テスト ショット別技能テスト

第15回 技能テストとまとめ ゲームにおける技能テストおよびまとめ

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

受講態度70%、ルールの理解度・技能30%。

与えられた課題に対する取り組み方、道具の準備、片付けなど、状況に応じた行動が積極的にできるかを重視して評価する。

|  |                         |                 |                 |
|--|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>小林 和典 |
|  |                         |                 | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：トレーニング</p> <p>到達目標：この授業では、色々なスポーツに取り組み、技術の向上、集団行動における協調性や助け合いの心を育むことをねらいとする。また、習熟レベルの違いを相互にサポートしあうことによりレベルアップをはかり、色々なスポーツ楽しめるレベルに達成することを目標とする。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は生涯スポーツに適した種目及びレクリエーションスポーツを中心に展開する。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 体力テスト</p> <p>第3回 トレーニングルームの使用説明</p> <p>第4回 ストレッチ方法および器具を使用しない筋力トレーニング</p> <p>第5回 マシンを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第6回 マシンを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第7回 ダンベルを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第8回 ダンベルを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第9回 バーベルを使用した筋力トレーニング（基礎）</p> <p>第10回 バーベルを使用した筋力トレーニング（応用）</p> <p>第11回 室内バイクおよびトレッドミルを使用したトレーニング（基礎）</p> <p>第12回 室内バイクおよびトレッドミルを使用したトレーニング（応用）</p> <p>第13回 筋力のサーキットトレーニング（基礎）</p> <p>第14回 筋力のサーキットトレーニング（応用）</p> <p>第15回 まとめ</p> |                         |                 |                 |
| <p>テキスト</p> <p>プリントを配布します。</p>   |                         |                 |                 |

参考書・参考資料等

適宜資料を配布

学生に対する評価

技術の習得度30%、態度（積極性・協調性）40%、提出物30%

|  |                         |                 |                                |
|--|-------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>竹内 隆司<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バスケットボール</p> <p>授業の目的:バスケットボールを通して、個人技能やチームプレーを高めながら、自分自身の体を活動的に発達させることを柱に、仲間とコミュニケーションを図り体力や健康の維持増進を目的とする</p> <p>到達目標:授業を通して運動の特性を理解し、自己の実技能力と体力を高めるとともに、チームプレー及びチームマネジメントの向上を図り、生涯スポーツの資質につながるマナーや協調性などの社会的スキルを習得する。</p>  |                         |                 |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>スポーツの特性を通じて、楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。バスケットボールの、基本的な個人技能や簡単なチーム戦術を使ったゲームを中心に展開する。</p>   |                         |                 |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（東キャンパス体育館）体育実技の概要、第2回以降の注意事項などの説明</p> <p>第2回 試しのゲーム</p> <p>第3回 基礎練習① 個人技能・ミニゲーム ランプレイの実現に向けて、パスやレイアップ技能の向上を図る練習やゲーム</p> <p>第4回 基礎練習② 個人技能・ミニゲーム ドリブルを加えたプレイの実現に向けて、ドリブルやドリブルシュートの技能練習や、ドリブルを駆使しながらの対人ゲーム</p> <p>第5回 基礎練習③ チームプレー・ミニゲーム マンツーマンやゾーンといったディフェンスの仕方を確認し、それぞれに応じた攻守の仕方を練習、ハーフことのゲームでの試し</p> <p>第6回 基礎練習④ チームプレー・ゲーム 攻めの役割とディフェンスの仕方をチームで決め出し、ゲームを通してチームに合った戦術を探る</p> <p>第7回 リーグ戦① 自チームの攻守のバランスに修正を加え、ゲームでその成果を試す</p> <p>第8回 リーグ戦② 自チームの攻守の良さを生かしつつ、相手チームの攻守のスタイルに応じたチームプレイの修正</p> <p>第9回 リーグ戦③ 基礎練習を通して、培ってきた攻守のよさを勝負にこだわったゲームの中で発揮する</p> |                         |                 |                                |

第10回 リーグ戦④ リーグ戦③の中で浮き彫りになった自分たちのチームの課題を解消する方法を探り、課題解決に向けた試行錯誤してみる

第11回 3×3ゲーム体験 3×3のゲームについて学び、実際にゲーム実践をしてみる

第12回 当日編成チームでの3×3ゲーム 当日編成されたチームでもコミュニケーションをとって、ハーフコートゲームに参加できるようにする

第13回 当日編成チームでのバスケットボールゲーム① 当日編成されたチームでもコミュニケーションをとって、ゲームに参加できるようにする

第14回 当日編成チームでのバスケットボールゲーム② 当日編成されたチームでも、攻守の役割やゲームプランをもってゲームを行う

第15回 ゲームにおける技能及びゲーム参加率観察およびまとめ 当日編成されたチーム内での、ゲーム中の技能状態とチームへのコミュニケーション状況の確認

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

受講態度50%、チーム運営やチームプレーに対する貢献度20%、多くの仲間とコミュニケーションをとりチーム参加の実現度20%、ルールの理解度・技能10%。

与えられた課題に対する取り組み方、個人やチームの上達に向けた態度、用具の準備・片付けなど、状況に応じた行動が積極的にできるかを重視して評価する。

|  |                         |                 |                 |
|--|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>田中 克実 |
|  |                         |                 | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バドミントン</p> <p>授業目的:バドミントンはラリーを通じた「コミュニケーションスポーツ」である。人間形成や心身共に健康な活力を担うために欠くことのできない身体運動について科学的に理解し、周りの人々とのコミュニケーションをとりながら実践できる知識を、実際の体験を通じて習得する。また、目的達成と意図がラリーの帰結となることを知り、自己の主張と意図を体現できるようにする。</p> <p>到達目標：</p> <p>(1) ネットを挟んでシャトルを打ち合い、バドミントン特有の駆け引きやスピード観を楽しむ。</p> <p>(2) ルールを正しく理解して、試合を自分たちで進められるようにする。</p> <p>(3) 起こり得る危険を回避し、安全を管理していく方法を理解する。</p>  |                         |                 |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>バドミントンの特性を通じて、スポーツの楽しさや面白さを体得し、健康の保持増進、体力の向上、自ら進んで行動する積極性を目指した授業を展開する。種目は「生涯スポーツ」の中の位置付けを一段昇華させること、そして楽しく積極的に運動を行う姿勢を養うことを目標とする。</p>   |                         |                 |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス (西キャンパス体育館) 体育実技の概要、第2回以降の注意事項などの説明</p> <p>第2回 基本ストロークⅠを体験し学習する 【ドライブ、クリアー、ヘアピン、ドロップ】</p> <p>第3回 基本ストロークⅡを体験し学習する 【スマッシュ、レシーブ、プッシュ】</p> <p>第4回 ストローク・プロダクションに有効なグリップや構え、打球方法を考える 【運動構造の理解と実践】</p> <p>第5回 目的達成の為にストローク・プロダクションを考え、ストローク・ムーブする 【何が目的かを考え、目的達成の為にどこに打球し、どこにどのように動くかを考える】</p> <p>第6回 ルールの学習 【サービスと得点の関係、フォルトに関して学習し、反則と設定されている意味を理解する】</p> <p>第7回 シングルス・ゲーム 【トラベリング技術を学習し、実践する】</p> |                         |                 |                 |

|   |
|---|
| <p>第8回 ダブルス・ゲーム (1) 【チームとしてディフェンスとアタックのバリエーションと陣形を理解して実践する】</p> <p>第9回 ダブルス・ゲーム (2) 【段階的指導を学習し、実践する】</p> <p>第10回 ダブルス・ゲーム (3) 【リーグ戦形式のゲームの運営を行う】</p> <p>第11回 ミックスダブルス・ゲーム 【男女混合種目を体験してそれぞれの役割を理解し、実践する】</p> <p>第12回 トリプルス 【3対3のスピーディーな展開を体感し、レクリエーションとしての可能性を図る】</p> <p>第13回 団体戦① 【個人種目における団体戦の意義と共生観念に関して学習する】</p> <p>第14回 団体戦② 【個人種目における団体戦の意義と共生観念に関して学習する】</p> <p>第15回 安全管理、危機回避義務指導 技能テストとまとめ</p> <p>【安全管理に関して再考する (スポーツ現場における怪我予見)】</p> <p>【ゲームにおける技能テストおよびまとめ】</p> |
| <p>テキスト</p> <p>下記参考文献から適宜資料を配布する。</p> <p>①大東 忠司『見るだけでうまくなる！バドミントンの基礎』<br/>ベースボールマガジン社 2019 年</p> <p>②日本バドミントン協会監修『観戦&amp;プレーで役に立つ！バドミントンのルール』<br/>実業之日本社 2016 年</p>   |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>  |
| <p>学生に対する評価</p> <p>授業への態度・取り組み (50%) と技能 (授業内での体力測定や課題など) (50%) で成績の評価を行う。評価基準の詳細については初回の授業で説明する。</p>   |

|  |                         |                 |                  |
|--|-------------------------|-----------------|------------------|
| 授業科目名：<br>体育実技B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br><br>1単位 | 担当教員名：<br>柿島 新太郎 |
|  |                         |                 | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |                 |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 体育                      |                 |                  |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：バレーボール</p> <p>到達目標：①バレーボール競技の基本的な技術を理解し、指導の計画を立案できる。<br/>②学習者の到達段階に応じた指導方法を立案し、実践できる。<br/>③クラス特性や集団特性を踏まえた授業計画を立案し、実践できる。<br/>④指導者グループ内で指導方法を検討、討議しより良いバレーボール競技の指導方法を検討することができる。</p>  |                         |                 |                  |
| <p>授業の概要</p> <p>バレーボール競技は幼児から高齢者まで幅広く参加できるスポーツである。競技スポーツとしては6人制や9人制、ビーチバレーなどの種目があり、また職場での気晴らしやレクリエーションにも導入されている。さらに近年注目を集める障害者スポーツではデフバレーやシッティングバレーなども徐々に普及しつつある。本講義では各種目の基本となる6人制バレーボール競技を教材として扱う。受講生の技術レベルは様々であるが、全員が基本技術を習得しバレーボールのゲームを楽しむことが出来るようにする。基礎練習や集団としての技術・戦術に加え、指導者としての資質等も総合的に学習する。</p>  |                         |                 |                  |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス バレーボールの特性</p> <p>第2回 試しのゲーム</p> <p>第3回 オーバーハンドパスを用いたミニゲームの展開</p> <p>第4回 アンダーハンドパスを用いたミニゲームの展開</p> <p>第5回 第1回 小テスト グループでの連続したパス</p> <p>第6回 オーバーハンドパスを用いた発展的なゲーム</p> <p>第7回 アンダーハンドパスを用いた発展的なゲーム</p> <p>第8回 戦術的・戦略的なサーブ</p> <p>第9回 個々の特性を考慮したサーブ</p> <p>第10回 第2回 小テスト グループでのサーブドリル</p> <p>第11回 パススキルの応用 ディグドリル</p> <p>第12回 パススキルの応用 レセプションドリル</p> |                         |                 |                  |

第13回 第3回 小テスト ディグ・レセプション

第14回 ゲームの運営の実際

第15回 バレーボール戦術の変遷と今後

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて、資料を配布する。

学生に対する評価

実技点 60点 (小テスト × 3回)

授業意欲 40点

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>富田 理恵 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：基本表現</p> <p>授業の目的：この授業では、具体的な英語力を自分のものにするために、読む、書く、聞く、話すという4技能をバランスよく配置したテキストを使用して、基本的語彙で書かれた英語を読めることと、その英語内容を聞き取れることを目指します。</p> <p>到達目標：この授業では聞き取れるようになるためにディクテーション、発音練習と音読練習などを行います。そして基本的な表現・語彙を身に付けて、英語での自己表現ができることを目指します。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題を中心に、リーディング、スピーキング、リスニング演習を通して、英語で理解し表現する英語運用能力を身につけます。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：The real Alice in wonderland 前半</p> <p>第3回：The real Alice in wonderland 後半, Practice</p> <p>第4回：The lady entered a UFO 前半</p> <p>第5回：The lady entered a UFO 後半</p> <p>第6回：Tragedy in the Swiss Alps, Practice</p> <p>第7回：The dead women's voice 前半</p> <p>第8回：The dead women's voice 後半</p> <p>第9回：The dead women's voice, Practice</p> <p>第10回：The death of Pompeii 前半</p> <p>第11回：The death of Pompeii後半</p> <p>第12回：The death of Pompeii, Practice</p> <p>第13回：The Bermuda Triangle 前半</p> <p>第14回：The Bermuda Triangle 後半, Practice</p> <p>第15回：復習</p> |                         |             |                 |
| テキスト   |                         |             |                 |

①What a story! ②ブライアン・ポール ほか ③南雲堂 ④ The 9784523175643 ⑤1400円+税

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

単語プリントの予習 30% 語彙力を問う中間テスト10% スペシャルプロジェクト（英語音読10%）復習点検テスト50%

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語A   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>米田 尚美 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：基本表現</p> <p>授業の目的:この授業では、具体的な英語力を自分のものにするために、読む、書く、聞く、話すという4技能をバランスよく配置したテキストを使用して、基本的語彙で書かれた英語を読めることと、その英語内容を聞き取れることを目指します。</p> <p>到達目標：この授業では聞き取れるようになるためにディクテーション、発音練習と音読練習などを行います。そして基本的な表現・語彙を身に付けて、英語での自己表現ができることを目指します。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題を中心に、スピーキング・リスニング演習を通して、英語で理解し表現する英語運用能力を身につけます。</p> <p>それぞれの単元において、聞くこと、話すことを中心に、英語運用能力の向上を図るための言語活動を実施する。テキストTOUCHSTONEを中心に、英会話に必要な瞬発力を鍛えたり、リスニング力を高める活動を行う。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション Unit 1 All about you P2-6</p> <p>第2回：Unit 1 All about you P7-9</p> <p>第3回：Unit 2 In class P12-15</p> <p>第4回：Unit 2 In class P16-19、小テスト (事前準備：第1～3回までの復習)</p> <p>第5回：Unit 3 Favorite people P22-25</p> <p>第6回：Unit 3 Favorite people P26-29</p> <p>第7回：Checkpoint Unit 1~3 P30-32</p> <p>第8回：Unit 4 Everyday life P34-37</p> <p>第9回：Unit 4 Everyday life P38-41、小テスト (事前準備：第4～9回までの復習)</p> <p>第10回：Unit5 Free time P44-47</p> <p>第11回：Unit5 Free time P48-51</p> <p>第12回：Unit6 Neighborhoods P54-57</p> <p>第13回：Unit6 Neighborhoods P58-61</p> |                         |             |                 |

第14回：Checkpoint Unit 4~6 P63-64、小テスト（事前準備：Unit4~6、第10~14の復習）

第15回：General Review まとめ

テキスト

①TOUCHSTONE Level1 Student's Book 1（前半）、またはTOUCHSTONE Level1 Student's Book 1A ②MICHAEL MCCARTHY, JEANNE MCCARTEN, HELEN SANDIFORD ③CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

④ISBN：9781107679870（1Aは9781107627925）⑤3245円、（1Aは2310円）

※「基礎英語A」では Student's Book 1Aを「基礎英語B」ではStudent's Book 1B を使用しますが、Student's Book 1を持っていれば「基礎英語A」と「基礎英語B」の両方で使用できます。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

評価方法：授業中の積極的参加70% 小テスト30%

評価基準：授業内の課題に対して積極的に取り組むことができる。口頭練習、ペアワーク、グループワークなど真面目に参加し、自己の英語力を高めようとする意欲、姿勢がみられる。

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語A   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>富田 理恵 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：英語表現と解釈</p> <p>英文を聴きとる力、読みとる力の向上に重点を置きながら、総合的な英語力を養う。ここでの到達目標は、まず基本的な動詞、形容詞に慣れて辞書を見れば文構造を理解することができるようになることとする。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>高等学校で学んだ英語力を確かなものとするため、短い英文の物語を読み、意外な展開のある楽しいストーリーを2回の読みきりで読んでいく。そのなかで英文を正しい発音で音読することにも力を入れる。随時、単語のテストや質疑応答により弱点を克服する。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Marie Antoinette of Versailles 前半</p> <p>第3回：Marie Antoinette of Versailles 後半, Practice</p> <p>第4回：Tragedy in the Swiss Alps 前半</p> <p>第5回：Tragedy in the Swiss Alps 後半</p> <p>第6回：Tragedy in the Swiss Alps, Practice</p> <p>第7回：The Hidden Gold of the Incas 前半</p> <p>第8回：The Hidden Gold of the Incas 後半</p> <p>第9回：The Hidden Gold of the Incas, Practice</p> <p>第10回：Titus and the Lion 前半</p> <p>第11回：Titus and the Lion 後半</p> <p>第12回：Titus and the Lion, Practice</p> <p>第13回：The Legend of Atlantis 前半</p> <p>第14回：The Legend of Atlantis 後半, Practice</p> <p>第15回：復習</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>①Tell me a story ②ブライアン・ポールほか ③南雲堂 ④9784523175636 ⑤1400円</p>   |                         |             |                 |
| <p>参考書・参考資料等</p>  |                         |             |                 |

特になし。

学生に対する評価

単語プリントの予習 30% 語彙力を問う中間テスト10% スペシャルプロジェクト（英語音読10%）復習点検テスト50%

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語A   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>白木 麻美 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：TOEIC対策</p> <p>到達目標：英文を聴きとる力、読みとる力の向上に重点を置きながら、総合的な英語力を養う。ここでの到達目標は、まず基本的な動詞、形容詞に慣れて辞書を見れば文構造を理解することができるようになることとする。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>高等学校で学んだ英語力を確かなものとするため、英文法をベースとした学習項目を各授業で確認し、演習形式で定着を図る。随時、質疑応答により弱点を克服する。学習項目は場面に応じた表現形式と、英文法の重要項目をベースとし、コミュニケーション能力の涵養を目指す。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Chapter1 Job Hunting Listening section</p> <p>第3回：Job Hunting Reading section</p> <p>第4回：Chapter2 Boyfriend's Birthday Listening section</p> <p>第5回：Boyfriend's Birthday Reading section</p> <p>第6回：Chapter3 Giving a Presentation Listening section</p> <p>第7回：Giving a Presentation Reading section</p> <p>第8回：Chapter4 Trip to Phuket in Thailand Listening section</p> <p>第9回：Trip to Phuket in thailand Reading section</p> <p>第10回：Chapter5 New Distribution Channel Listening section</p> <p>第11回：New Distribution Channel Reading section</p> <p>第12回：Chapter6 A Letter to Father Listening section</p> <p>第13回：A Letter to Father Reading section</p> <p>第14回：Chapter7 Board Meeting Listening section</p> <p>第15回：総復習・まとめ</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>① Enjoy Practicing for the TOEIC Listening and Reading Test ② 石井隆之ほか ③ 三修社 ④ ISBN 978-4-384-33472-2 C1082 ⑤ 1980円</p>  |                         |             |                 |

参考書・参考資料等

英和辞典・英文法の参考書

学生に対する評価

授業参加態度30%      提出物20%      各章ごとの復習確認テスト50%

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語B   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>富田 理恵 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：基本表現</p> <p>授業の目的：この授業では、具体的な英語力を自分のものにするために、読む、書く、聞く、話すという4技能をバランスよく配置したテキストを使用して、基本的語彙で書かれた英語を読めることと、その英語内容を聞き取れること、また基本的な英語での自己表現ができるようになることを目指します。</p> <p>到達目標：基本的な英語を理解し、表現できる英語運用能力を身に付ける。</p> <p>基礎英語Aで学習したことを発展させ、英語で理解し表現する運用能力のレベルアップを目指す。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題を中心に、リーディング、スピーキング、リスニング演習を通して、英語で理解し表現する英語運用能力を身につけます。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：The \$50,000 Wallpaper 前半</p> <p>第3回：The \$50,000 Wallpaper, Practice</p> <p>第4回：The Titanic Disaster 前半</p> <p>第5回：The Titanic Disaster 後半</p> <p>第6回：The Titanic Disaster, Practice</p> <p>第7回：A Boy's Dream 前半</p> <p>第8回：A Boy's Dream 後半</p> <p>第9回：A Boy's Dream, Practice</p> <p>第10回：Music for a Dead Man 前半</p> <p>第11回：Music for a Dead Man 後半</p> <p>第12回：Music for a Dead Man, Practice</p> <p>第13回：Soup for the RUssian Tsar 前半</p> <p>第14回：Soup for the RUssian Tsar後半, Practice</p> <p>第15回：復習</p> |                         |             |                 |

テキスト

①What a story! ②ブライアン・ポール ほか ③南雲堂 ④ The 9784523175643 ⑤1400円+税

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

単語プリントの予習 30% 語彙力を問う中間テスト10% スペシャルプロジェクト（英語音読10%）復習点検テスト50%

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>米田 尚美 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：基本表現</p> <p>授業の目的：この授業では、具体的な英語力を自分のものにするために、読む、書く、聞く、話すという4技能をバランスよく配置したテキストを使用して、基本的語彙で書かれた英語を読めることと、その英語内容を聞き取れること、また基本的な英語での自己表現ができるようになることを目指します。</p> <p>到達目標：基本的な英語を理解し、表現できる英語運用能力を身に付ける。</p> <p>英語で理解し表現する運用能力のレベルアップを目指す。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>身近な話題を中心に、スピーキング・リスニング演習を通して、英語で理解し表現する英語運用能力を身につけます。この授業では聞き取れるようになるためにディクテーション、発音練習と音読練習などを行います。</p> <p>それぞれの単元において、聞くこと、話すことを中心に、英語運用能力の向上を図るための言語活動を実施する。基礎英語Aに引き続き、日常生活における基本的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>それぞれの単元において、聞くこと、話すことを中心に、特に自己表現を英語で行うことができる実践的な運用能力を養う。</p> <p>テキストTOUCHSTONEを中心に、英会話に必要な瞬発力を鍛えたり、リスニング力を高める活動を行う。</p> |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：Unit 7 Out and about P66-69</p> <p>第2回：Unit 7 Out and about P70-73</p> <p>第3回：Unit 8 Shopping P76-79</p> <p>第4回：Unit 8 Shopping P80-83、小テスト</p> <p>第5回：Unit 9 A wide world P86-89</p> <p>第6回：Unit 9 A wide world P90-93</p> <p>第7回：Checkpoint Unit 7~9 P95-96</p> <p>第8回：Unit 10 Busy lives P98-101</p>                         |                         |             |                 |

第9回 : Unit 10 Busy lives P102-105、小テスト

第10回 : Unit11 Looking back P108-111

第11回 : Unit11 Looking back P112-115

第12回 : Unit12 Fabulous food P118-121

第13回 : Unit12 Fabulous food P122-125

第14回 : Checkpoint Unit 10~12 P127-128、小テスト

第15回 : General Review

テキスト

①TOUCHSTONE Level1 Student's Book 1 (後半)、またはTOUCHSTONE Level1 Student's Book 1B ②MICHAEL MCCARTHY, JEANNE MCCARTEN, HELEN SANDIFORD ③CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

④ISBN : 9781107679870 (1Bは9781107653450) ⑤3245円、(1Bは2310円)

※「基礎英語A」では Student's Book 1Aを「基礎英語B」ではStudent's Book 1B を使用しますが、Student's Book 1を持っていれば「基礎英語A」と「基礎英語B」の両方で使用できます。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

評価方法 : 授業中の積極的参加70% 小テスト30%

評価基準 : 授業内の課題に対して積極的に取り組むことができる。口頭練習、ペアワーク、グループワークなど真面目に参加し、自己の英語力を高めようとする意欲、姿勢がみられる。

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>富田 理恵 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：英語表現と解釈</p> <p>英語を発信する力の向上に重点を置きながら、総合的な英語力を養う。ここでの到達目標は、基本的な動詞、形容詞の型に習熟し、しっかりした文を用いて発言できること、しっかりした文型を使って文章を書くことができるようにすることとする。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>高等学校で学んだ英語力を確かなものとするため、短い英文の物語を読み、意外な展開のある楽しいストーリーを2回の読みきりで読んでいく。そのなかで簡潔な英語で正しく表現することにも力を入れる。随時、単語のテストや質疑応答により弱点を克服する。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：The Curse of Tutankhamen 前半</p> <p>第3回：The Curse of Tutankhamen 後半</p> <p>第4回：The Curse of Tutankhamen, Practice</p> <p>第5回：The Moon Saved a Man's Life 前半</p> <p>第6回：The Moon Saved a Man's Life 後半, Practice</p> <p>第7回：Cards Saved a King's life 前半</p> <p>第8回：Cards Saved a King's life 後半</p> <p>第9回：Cards Saved a King's life, Practice</p> <p>第10回：The Pirate's Treasure 前半</p> <p>第11回：The Pirate's Treasure 後半, Practice</p> <p>第12回：The New Earthquake Prediction 前半</p> <p>第13回：The New Earthquake Prediction 後半</p> <p>第14回：The New Earthquake Prediction, Practice</p> <p>第15回：復習</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>①Tell me a story ②ブライアン・ポールほか ③南雲堂 ④9784523175636 ⑤1400円+税</p>  |                         |             |                 |
| <p>参考書・参考資料等</p>   |                         |             |                 |

特になし。

学生に対する評価

単語プリントの予習 30% 語彙力を問う中間テスト10% スペシャルプロジェクト（英語音読10%）復習点検テスト50%

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>基礎英語B   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>白木 麻美 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：TOEIC対策</p> <p>到達目標：英語を発信する力の向上に重点を置きながら、総合的な英語力を養う。今期の到達目標は、基本的な動詞、形容詞の型に習熟し、しっかりした文を用いて発言できること、しっかりした文型を使って文章を書くことができるようにすることとする。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>高等学校で学んだ英語力を確かなものとするため、英文法をベースとした学習項目を各授業で確認し、演習形式で定着を図る。随時、質疑応答により弱点を克服する。学習項目は場面に応じた表現形式と、英文法の重要項目をベースとし、コミュニケーション能力の涵養を目指す。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Chapter7 Board Meeting Reading section</p> <p>第3回：Chapter8 Traffic Accident Listening section</p> <p>第4回：Chapter8 Traffic Accident Reading section</p> <p>第5回：Chapter9 Business Trip Abroad Listening section</p> <p>第6回：Chapter9 Business Trip Abroad Reading section</p> <p>第7回：Chapter10 Miraculous Recovery Listening section</p> <p>第8回：Chapter10 Miraculous Recovery Reading section</p> <p>第9回：Chapter11 President's Decision Listening section</p> <p>第10回：Chapter11 President's Decision Reading section</p> <p>第11回：Chapter12 Proposal Listening section</p> <p>第12回：Chapter12 Proposal Reading section</p> <p>第13回：Chapter13 Getting a Promotion Listening section</p> <p>第14回：Chapter13 Getting a Promotion Reading section</p> <p>第15回：総復習・まとめ</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>① Enjoy Practicing for the TOEIC Listening and Reading Test ② 石井隆之ほか ③ 三修社 ④ ISBN 978-4-384-33472-2 C1082 ⑤ 1980円</p>  |                         |             |                 |

参考書・参考資料等

英和辞典・英文法の参考書

学生に対する評価

授業参加態度30%      提出物20%      各章ごとの復習確認テスト50%

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>英語活用演習A  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>白木 麻美 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：医療系</p> <p>授業の目的:この授業では、英語で書かれたものの概要を正確に理解し、自分に必要な情報を確実に得られる読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p>到達目標:医療系の職種に就職する学生の為に書かれた総合英語の教科書を用い、リーディングを中心に授業を進めるが、読解力だけでなく、医療系分野の基礎的な語彙の習得や、リスニング力向上の為に演習も行う。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>初歩的な医学・医療倫理等の文献読解、医療に関わる基本語彙や英文作成等々について、基礎的な英語力の習得を目指す。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Unit1 First Vist</p> <p>第3回：Unit2 At the Examination Room</p> <p>第4回：Unit3 Flu Symptoms</p> <p>第5回：Unit4 Pain Problems</p> <p>第6回：Unit5 Stomachache</p> <p>第7回：Unit6 Abdominal Pain</p> <p>第8回：Unit7 Urinalysis</p> <p>第9回：Unit8 Cholesterol</p> <p>第10回：Unit9 Anemia</p> <p>第11回：Unit10 Injury</p> <p>第12回：Unit11 Operation Period</p> <p>第13回：Unit12 Alcohol Poisoning</p> <p>第14回：Unit13 Ultrasound Examination</p> <p>第15回：総復習・まとめ</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>① Medical English Clinic ② 西原俊明ほか ③ センゲージ ラーニング株式会社</p>   |                         |             |                 |

④ ISBN: 978-4-86312-376-2 ⑤ 2090円

参考書・参考資料等

英和辞典

学生に対する評価

授業参加態度30% 小テスト及び提出物20% 復習確認テスト50%

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>英語活用演習B  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>白木 麻美 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 外国語コミュニケーション            |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ビジネス系</p> <p>国際ビジネスコミュニケーションに必要な知識を習得し、IT時代に対応した英語の活用能力の育成を目指します。日商ビジネス英語検定試験 3級合格を目標にし、総仕上げをします。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>英語活用演習Aの発展型として、「日常会話としての基本的な英語コミュニケーション」と「ビジネスなどで必要とされる英語コミュニケーション」など、ビジネスを行うために必要な英語表現について学びます。「ビジネスの場面にふさわしい英語」を習得することができるように、取引相手との初対面の挨拶や、会議での自己紹介、といった場面設定でのより洗練された英語表現を学べるように工夫されているテキストを使用します。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Lesson1 Stating the Purpose of a Contact</p> <p>第3回：Lesson2 Meeting for the First Time</p> <p>第4回：Lesson3 Presenting a Business Card</p> <p>第5回：Lesson4 Transferring a Call</p> <p>第6回：Lesson5 Phone Troubles</p> <p>第7回：Lesson6 At the Airport Abroad</p> <p>第8回：Lesson7 Making Polite Requests</p> <p>第9回：Lesson8 Taking and Leaving Telephone Messages</p> <p>第10回：Lesson9 Making Inquiries</p> <p>第11回：Lesson10 Making Appointments 1</p> <p>第12回：Lesson11 Stating Requests Clearly</p> <p>第13回：Lesson12 Making Apologies</p> <p>第14回：Lesson13 Making Appointments 2</p> <p>第15回：総復習・まとめ</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>① A Shorter Course in English for Business Communication ② 新田亜紀子 ③ 南</p>  |                         |             |                 |

|   |
|---|
| 雲堂 ④ ISBN 978-4-523-17870-5 C0082 ⑤ 770円      |
| 参考書・参考資料等<br>英和辞典                             |
| 学生に対する評価<br>授業参加態度30% 小テスト及び提出物20% 復習確認テスト50% |

|  |                         |             |                 |
|--|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>コンピュータリテラシー I  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>安藤 雅夫 |
|  |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 情報機器の操作                 |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>法律、権利等を尊重した上での情報収集、各種アプリケーションソフトを活用した情報の整理・加工・分析および文書、プレゼンテーション、インターネットによる情報の提示に関する技能を修得する。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>情報化社会では、情報収集・分析・整理能力が要求され、情報を共有したコラボレーション（共同作業）が当たり前のように行われている。このため、情報を扱うために必要な知識と能力を養わなければならない。本授業では、特にコンピュータやネットワークの扱い方から情報の扱い方に至るまでの基礎知識と能力を身につけ、当たり前のようにコンピュータを活用できるようになることを目標とし、実際にコンピュータを利用しながらの実体験を基に学習する。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ネットの利用：Classroom,電子メールの使い方</p> <p>第2回：情報とセキュリティ</p> <p>第3回：文書作成：Wordの基本操作1 文書編集</p> <p>第4回：Wordの基本操作2 表の作成</p> <p>第5回：Wordの基本操作3 図形描画</p> <p>第6回：Wordの応用 ビジネス文書</p> <p>第7回：表計算：Excelの基本1 データ入力</p> <p>第8回：Excelの基本2 関数</p> <p>第9回：Excelの基本3 グラフ</p> <p>第10回：Excelの応用 データベース</p> <p>第11回：プレゼンテーション：PowerPointの基本操作1 スライド作成</p> <p>第12回：PowerPointの基本操作2 視覚的な支援教材の作成</p> <p>第13回：LaTeX入門1 LaTeXのしくみ</p> <p>第14回：LaTeX入門2 数式の基本</p> <p>第15回：Rによるデータ処理, まとめ</p> |                         |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>① [改訂第5版] 基礎からわかる情報リテラシー② 森本尚之, 奥村晴彦 ③技術評論社</p>   |                         |             |                 |

|                                    |
|------------------------------------|
| ④ISBN 978-4-297-13765-6⑤1,650円     |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                  |
| 学生に対する評価<br>課題，小テスト80%、授業への参加態度20% |

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>コンピュータリテラシー I   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>高野 盛光 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 情報機器の操作                 |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                         |             |                 |
| 法律、権利等を尊重した上での情報収集、各種アプリケーションソフトを活用した情報の整理・加工・分析および文書、プレゼンテーション、インターネットによる情報の提示に関する技能を修得する。   |                         |             |                 |
| 授業の概要   |                         |             |                 |
| 情報化社会では、情報収集・分析・整理能力が要求され、情報を共有したコラボレーション（共同作業）が当たり前のように行われている。このため、情報を扱うために必要な知識と能力を養わなければならない。本授業では、特にコンピュータやネットワークの扱い方から情報の扱い方に至るまでの基礎知識と能力を身につけ、当たり前のようにコンピュータを活用できるようになることを目標とし、実際にコンピュータを利用しながらの実体験を基に学習する。 |                         |             |                 |
| 授業計画  |                         |             |                 |
| 第1回：電子メールの使い方   |                         |             |                 |
| 第2回：情報とセキュリティ   |                         |             |                 |
| 第3回：ネット時代の著作権   |                         |             |                 |
| 第4回：Wordの基本操作1 文書編集   |                         |             |                 |
| 第5回：Wordの基本操作2 表の作成   |                         |             |                 |
| 第6回：Wordの基本操作3 図形描画   |                         |             |                 |
| 第7回：Wordの基本操作4 オンライン画像の利用   |                         |             |                 |
| 第8回：Wordの応用 ビジネス文書  |                         |             |                 |
| 第9回：PowerPointの基本操作1 スライド作成   |                         |             |                 |
| 第10回：PowerPointの基本操作2 図形・オブジェクトの操作  |                         |             |                 |
| 第11回：PowerPointの基本操作3 図表・グラフ・表の操作   |                         |             |                 |
| 第12回：PowerPointの基本操作4 特殊効果  |                         |             |                 |
| 第13回：PowerPointの基本操作5 スライドショー   |                         |             |                 |
| 第14回：PowerPointの基本操作6 視覚的な支援教材の作成   |                         |             |                 |
| 第15回：PowerPointの活用 プレゼンテーションの基本、まとめ   |                         |             |                 |
| テキスト  |                         |             |                 |
| ① 『30時間アカデミック Windows10対応 Office2019』 ②杉本くみ子・大澤栄子 著   |                         |             |                 |

|   |
|---|
| ③ 実教出版 ④ISBN:978-4-407-34833-0 ⑤本体¥1,300+税      |
| 参考書・参考資料等<br>特になし                               |
| 学生に対する評価<br>課題, 小テスト100% (小テストの回数は授業進行により変わります) |

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>コンピュータリテラ<br>シーⅡ  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>佐藤 尊範 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 情報機器の操作                 |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                         |             |                 |
| <p>【授業の目的】 将来従事する職業に関連する情報について理解し，データ加工の実践を通じて情報を収集・加工・発信する方法について学習する。</p> <p>【到達目標】 履修生は表計算ソフトを利用して計算，集計，統計処理を行い，データの分析結果を分かりやすく報告できる。</p> |                         |             |                 |
| 授業の概要   |                         |             |                 |
| 事務処理の道具の一つとして表計算ソフトがあります。表計算ソフトを使用して、与えられたデータを加工し、統計処理などをして表にまとめ、そのデータをグラフ化できるように、データ処理をする能力を身につけてもらいます。                                    |                         |             |                 |
| 授業計画  |                         |             |                 |
| 第1回：授業の概要   |                         |             |                 |
| 第2回：表計算ソフトの役割   |                         |             |                 |
| 第3回：課題#01（文字・数式入力，書式変更）作業   |                         |             |                 |
| 第4回：課題#01作業   |                         |             |                 |
| 第5回：課題#02（参照，フィル）作業   |                         |             |                 |
| 第6回：課題#02作業   |                         |             |                 |
| 第7回：記述統計  |                         |             |                 |
| 第8回：課題#03（統計関数，グラフ作成）作業   |                         |             |                 |
| 第9回：課題#03作業   |                         |             |                 |
| 第10回：データ加工の重要性  |                         |             |                 |
| 第11回：課題#04（表の整形，報告書作成）作業  |                         |             |                 |
| 第12回：課題#04作業  |                         |             |                 |
| 第13回：課題#05（データベース関数，ピボット）作業   |                         |             |                 |
| 第14回：課題#05作業  |                         |             |                 |
| 第15回：授業の振り返りと最終課題（習得度の自己評価報告）作業   |                         |             |                 |
| テキスト  |                         |             |                 |
| 適宜資料を配布する。  |                         |             |                 |
| 参考書・参考資料等   |                         |             |                 |

①手順通りに操作するだけ! Excel基本&時短ワザ[完全版]第2版 仕事を一瞬で終わらせる 基本から応用まで 179のワザ ②国本温子 ③SBクリエイティブ ④978-4-8156-1729-5 ⑤1485円

学生に対する評価

最終課題 50%

課題成果及び小テスト 40%

平常点・授業への参加態度 10%

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>コンピュータリテラ<br>シーⅡ  | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>高野 盛光 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 情報機器の操作                 |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業の目的】 将来従事する職業に関連する情報について理解し，データ加工の実践を通じて情報を収集・加工・発信する方法について学習する。</p> <p>【到達目標】 履修生は表計算ソフトを利用して計算，集計，統計処理を行い，データの分析結果を分かりやすく報告できる。</p>   |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>事務処理の道具の一つとして表計算ソフトがあります。表計算ソフトを使用して、与えられたデータを加工し、統計処理などをして表にまとめ、そのデータをグラフ化できるように、データ処理をする能力を身につけてもらいます。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：授業内容の説明</p> <p>第2回：表計算ソフトの基本操作</p> <p>第3回：ファイルの読込・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイル操作の確認，</li> <li>・ファイルの読込・保存について</li> <li>・リムーバブルメディアについて</li> </ul> <p>第4回：データの入力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ、数式の入力，</li> <li>・データの編集</li> <li>・セル範囲の選択</li> </ul> <p>第5回：書式設定（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・罫線、塗りつぶし，</li> <li>表示形式</li> <li>・配置設定，</li> <li>フォント設定</li> </ul> <p>第6回：書式設定（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件付き書式，</li> <li>列幅、行高の設定</li> <li>・行の挿入、削除，</li> <li>列の非表示、再表示</li> </ul> <p>第7回：関数の利用（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値の四捨五入、切り捨て、切り上げ，</li> <li>順位を求める</li> </ul> <p>第8回：数式の入力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関数の入力方法，</li> <li>いろいろな関数の利用</li> </ul> |                         |             |                 |

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・相対参照と絶対参照</li></ul> <p>第9回：関数の利用（2）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・条件で判断する,   ・日付を計算する</li></ul> <p>第10回：関数の利用（3）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・表から該当データを参照する</li></ul> <p>第11回：グラフの作成（1）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・グラフ機能の概要,   ・円グラフの作成</li></ul> <p>第12回：グラフの作成（2）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・棒グラフの作成,   ・複合グラフの作成</li></ul> <p>第13回：データベース機能</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・データベース機能の概要,   ・データの並べ替え,   ・データの抽出</li></ul> <p>第14回：複数シートの操作</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シート名の変更,   ・作業グループの設定</li><li>・シートの移動、コピー,   ・シートの挿入、削除</li></ul> <p>第15回：授業の振り返りと最終課題（習得度の自己評価報告）作業</p> |
| テキスト   |
| ① 『30時間アカデミック Windows10対応 Office2019』 ②杉本くみ子・大澤栄子 著<br>③実教出版 ④ISBN:978-4-407-34833-0 ⑤本体¥1,300+税   |
| 参考書・参考資料等  |
| 適宜紹介する。  |
| 学生に対する評価   |
| 課題, 小テスト100% (小テストの回数は授業進行により変わります)  |

|   |                         |             |                 |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>情報リテラシー   | 教員の免許状取得のための<br>選択科目    | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>佐藤 尊範 |
|   |                         |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 情報機器の操作                 |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の目的:<br/>医療に関する情報を理解し、それらの情報を活用する方法について修得する。</p> <p>到達目標:<br/>情報を倫理的に扱う際に注意すべきことを説明でき、医療機関における医療情報システムについて学び、電子カルテを運用する上で、医療スタッフとしての責務について理解する。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>情報科学の基礎について学び、今後、情報科学の諸分野を理解していく上で不可欠な数学的思考法の習得を目標とし、コンピュータの基本構成から機器の構造、機能、医療に関する情報を理解するとともに、それらの情報を活用する方法について修得し、様々な情報をデジタル化する技術について学ぶ。</p>  |                         |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要説明</p> <p>第2回：情報の概念</p> <p>第3回：情報科学の基礎</p> <p>第4回：ソフトウェアとハードウェア</p> <p>第5回：情報通信の基礎</p> <p>第6回：情報伝達技術とインターネット</p> <p>第7回：情報社会における情報倫理と情報セキュリティ</p> <p>第8回：医療に関わる情報収集と情報共有</p> <p>第9回：課題#01（医学文献を読み解く）作業</p> <p>第10回：課題#01作業</p> <p>第11回：課題#02（データ加工処理）作業</p> <p>第12回：課題#02作業</p> <p>第13回：課題#03（テーマに則ったプレゼンテーション）作業</p> <p>第14回：課題#03作業</p> <p>第15回：総復習・まとめ</p> |                         |             |                 |
| テキスト  |                         |             |                 |

|   |
|---|
| <p>・① [改訂第5版] 基礎からわかる情報リテラシー ②森本尚之, 奥村晴彦 ③技術評論社<br/>④978-4-297-13765-6 ⑤1650円</p> <p>・①図解PubMedの使い方 インターネットで医学文献を探す 第8版 ②大崎泉/成田ナツキ【<br/>著者】/阿部信一/山下ユミ【監修者】 ③日本医学図書館協会 ④9784931222281 ⑤1980円</p> |
| <p>参考書・参考資料等<br/>適宜紹介する。</p>  |
| <p>学生に対する評価<br/>最終課題 50%<br/>課題成果及び小テスト 40%<br/>平常点・授業への参加態度 10%</p>  |

|   |                      |             |                 |
|---|----------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>教育原理  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>白山 眞澄 |
|   |                      |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育の基礎的理解に関する科目       |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 |             |                 |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや、教育および学校の歴史的変遷とその意味を理解するとともに、それらの教育思想や理念と実際の学校教育の関わりや今日的課題を考えることができる。</p>   |                      |             |                 |
| <p>授業の概要</p> <p>「人間とは何か」「教育とは何か」という視座から教育の基本概念を問い、教育の主な理念と思想を知るとともに、それらが歴史的背景の中でどのような教育および学校の営みとして現れてきたのかを理解する。</p>   |                      |             |                 |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か：学ぶことと教えること</p> <p>第2回：教育と人間の成長・発達</p> <p>第3回：教育の3つの領域：家庭教育、学校教育、社会教育</p> <p>第4回：家族と社会による教育の歴史：生徒観と教育観の変遷</p> <p>第5回：教育の思想と歴史①：コメニウス、ルソー、ペスタロッチ</p> <p>第6回：教育の思想と歴史②：フレーベル、デューイ、モンテッソーリ</p> <p>第7回：教育の思想と歴史③：日本の近代教育の始まり</p> <p>第8回：教育の思想と歴史④：民主教育制度の確立</p> <p>第9回：教育の思想と歴史⑤：教育改革とその後の展開</p> <p>第10回：教育の制度：学校制度の成立と発展</p> <p>第11回：教育内容と教育課程：教育内容の構成、教育課程と計画</p> <p>第12回：教育の実践：教育方法と評価</p> <p>第13回：教育の実践：教育実践の多様な取り組み</p> <p>第14回：学習権の思想①：教育を受ける権利と教育の機会均等</p> <p>第15回：学習権の思想②：教育の今日的課題と子どもの「最善の利益」</p> <p>定期試験</p> |                      |             |                 |
| <p>テキスト</p> <p>・授業で資料等を配布する</p>   |                      |             |                 |

**参考書・参考資料等**

- ・『問いからはじめる教育学』（2016）勝野 正章, 有斐閣ストゥディア
- ・『やさしい教育原理 第3版』（2013）田嶋 一他（著）, 有斐閣アルマ
- ・「中学校学習指導要領解説」文部科学省
- ・「高等学校学習指導要領解説」文部科学省

**学生に対する評価**

- ・平常点（授業への積極的な貢献度：10%）
- ・課題の提出物（課題の理解と発展的思考：20%）
- ・定期試験（到達目標に関する体系的な理解度：70%）

※到達目標に応じた評価をする

|   |                                    |             |                 |
|---|------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>教職概論  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目               | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>白山 眞澄 |
|   |                                    |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育の基礎的理解に関する科目                     |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標  |                                    |             |                 |
| <p>公教育の目的と教職の社会的意義を考え、今日の教員に求められる基礎的な資質能力について理解する。また、教員の服務上の義務や、職務の全体像を理解したうえで、教育の専門家として学び続けることの重要性および、学校内外の多様な専門家と連携し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。</p> |                                    |             |                 |
| 授業の概要   |                                    |             |                 |
| <p>教員の職務の全体像や服務上の義務および、現代社会において求められる教職の意義と教員の役割、資質能力、職務内容等について学び、教育の営みとしての学習指導、生徒指導、学級経営等、学校教育の全体像を幅広く理解するとともに、教職への適性と進路選択を考えながら、教職を目指すための意欲を育む。</p>      |                                    |             |                 |
| 授業計画  |                                    |             |                 |
| 第1回：公教育の目的と教職の意義：教師という仕事の特質   |                                    |             |                 |
| 第2回：教職観の変遷：社会の動向と求められる教師像   |                                    |             |                 |
| 第3回：教育の専門家としての適性と資質能力   |                                    |             |                 |
| 第4回：子どもを育む①：小学校教師の仕事  |                                    |             |                 |
| 第5回：子どもを育む②：中学校教師の仕事  |                                    |             |                 |
| 第6回：授業をつくる：授業デザインを支える教師の知識と思考   |                                    |             |                 |
| 第7回：授業から学ぶ：省察的実践家としての教師   |                                    |             |                 |
| 第8回：カリキュラムをデザインする   |                                    |             |                 |
| 第9回：教師の力量形成と研修制度  |                                    |             |                 |
| 第10回：教師の専門性①：学級経営の在り方と具体的実践   |                                    |             |                 |
| 第11回：教師の専門性②：生徒理解と生徒指導  |                                    |             |                 |
| 第12回：学校内外の専門家との連携：チーム学校への対応   |                                    |             |                 |
| 第13回：教師のライフコース：教職とジェンダー、学び続ける教師像  |                                    |             |                 |
| 第14回：法令に見る教師：身分、任命権者、服務規程、勤務条件と職員団体   |                                    |             |                 |
| 第15回：教師をめざして：教育実習の意義、教員免許状取得、教員採用選考   |                                    |             |                 |
| 定期試験  |                                    |             |                 |
| テキスト  |                                    |             |                 |

|   |
|---|
| ・授業で資料等を配布する  |
| 参考書・参考資料等<br>・『新しい時代の教職入門』改訂版(2015) 秋田喜代美・佐藤学(編著) 有斐閣アルマ  |
| 学生に対する評価<br>・平常点(授業への積極的な貢献度:10%)<br>・課題の提出物(課題の理解と発展的思考:20%)<br>・定期試験(到達目標に関する体系的な理解度:70%)<br>※到達目標に応じた評価をする |

|   |   |             |                |
|---|---|-------------|----------------|
| 授業科目名：<br>教育経営論   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                          | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>脇田 正 |
|   |   |             | 担当形態：<br>単独    |
| 科 目   | 教育の基礎的理解に関する科目                                |             |                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |             |                |
| 授業のテーマ及び到達目標  |   |             |                |
| <p>教員免許を取得しようとする場合に必要な学校教育の法的・制度的仕組みや学校経営における組織や学校現場の具体的な場面での学校経営マネジメントのあり方、学校評価、経営上の様々な連携・協働に関する知識を習得するとともに、課題を理解できる。次に、社会制度としての学校は、組織や運営の基礎が「法」で枠付けられていることから、その基本を修得するとともに、学校現場の具体的な場面での学校経営マネジメントのあり方について理解できる。さらに、学校と地域連携の理解や学校管理下における安全への対応についての知識を身につける。</p>                            |   |             |                |
| 授業の概要   |   |             |                |
| <p>学校は社会制度として、その教育が計画的・組織的に営まれているところに特色がある。そこで、この講義においては前半で中等教育段階に焦点を当て、その法的・制度的仕組みや展開や社会的役割について概観し、後半では学校の内部、すなわち学校組織を対象にして、学校教育が様々な「網の目」の組織で構成されていることに気づき、それぞれが関連しあって、学校経営が機能していることを学校現場の具体例をもとに学習する。また、その際、学校・学級経営の具体的なプラン作成を小集団で実施し、意見交流の時間を設定する。さらに、地域連携や学校安全への対応についての具体的事例をもとに学修する。</p> |   |             |                |
| 授業計画  |   |             |                |
| 第1回：人間形成の社会システム   |   |             |                |
| 第2回：義務教育制度と中等教育制度   |   |             |                |
| 第3回：戦後の中等教育制度の概観  |   |             |                |
| 第4回：受験制度と中等教育制度   |   |             |                |
| 第5回：中等教育システムの多様化－現行法制の確認  |   |             |                |
| 第6回：教育行政と学校経営－学校運営協議会など－  |   |             |                |
| 第7回：学校経営に関わる法制  |   |             |                |
| 第8回：学校経営と学校組織   |   |             |                |
| 第9回：校務分掌組織と運営のプロセス  |   |             |                |
| 第10回：教職員の職制と人間関係  |   |             |                |
| 第11回：学校組織と職能成長～学校評価システム(プラン作成のグループワーク)  |   |             |                |
| 第12回：学校運営の実際場面(プラン作成のグループワーク)   |   |             |                |

第13回：学校経営過程と機能

第14回：校長のリーダーシップと教師の経営参加(プラン作成のグループワーク)

第15回：学校及び地域との連携及び危機管理と学校安全への対応

定期試験

テキスト

- ・プリントを毎回、配付する。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省HP 学制120年史  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm))
- ・平成24年4月、「学校安全の推進に関する計画」  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/anzen/1320286.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1320286.htm))
- ・「地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集」  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/28/04/1370496.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/1370496.htm))
- ・「公教育と教育行政」曾我雅比児著 大学教育出版 2007年
- ・「新しい時代の教育制度と経営」岡本徹・佐々木司編著 ミネルヴァ書房 2009年

学生に対する評価

1. 授業における「問い」へのコメント課題プリント・授業態度(聞く姿勢、ノートを取る意欲) 20%
2. 期末テスト(全授業内容の理解ができている) 80%

|   |                        |             |                  |
|---|------------------------|-------------|------------------|
| 授業科目名：<br>教育心理学   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目   | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>川嶋 健太郎 |
|   |                        |             | 担当形態：<br>単独      |
| 科 目   | 教育の基礎的理解に関する科目         |             |                  |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程 |             |                  |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では教育の現場に生かせる教育心理学の知識の習得を目的としている。到達目標は次の5つである。1. 心身の発達に対する代表的理論を踏まえて、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。2. 発達の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について理解する。3. 学習過程に関する代表的理論の基礎を理解する。4. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解する。5. 主体的な学習活動を支える指導の基礎を理解する。</p>  |                        |             |                  |
| <p>授業の概要</p> <p>幼児・児童・生徒に対して教育を行う際には、子どもの発達や学習過程を理解することは重要である。より主体的に学習をする意欲を増し、学習をより効果的に行うことが可能になるからである。本講義では教職に必要な心理学の基礎的な知識を説明し、さらに複数のテーマについてはグループでの討論と課題の実施を行う。</p>  |                        |             |                  |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに ー教育心理学とは</p> <p>第2回：発達過程の理解1 発達の内的・外的要因</p> <p>第3回：発達過程の理解2 言語・認知・社会性の発達</p> <p>第4回：学習過程の理解1 記憶と知識の獲得</p> <p>第5回：学習過程の理解2 条件づけの基礎</p> <p>第6回：学習過程の理解3 条件づけの理論</p> <p>第7回：学習意欲の理解1 動機づけの基礎</p> <p>第8回：学習意欲の理解2 動機づけの理論</p> <p>第9回：学級という社会1 学級集団</p> <p>第10回：学級という社会2 人間関係</p> <p>第11回：幼児・児童・生徒の理解1 個人差</p> <p>第12回：幼児・児童・生徒の理解2 心理療法</p> <p>第13回：学習指導 学習指導の形態</p> <p>第14回：教育評価 学力・知能の評価</p> <p>第15回：発達障がいの理解</p> |                        |             |                  |

|  |
|--|
| 定期試験   |
| テキスト<br>・適宜プリントを配布する                                       |
| 参考書・参考資料等<br>・多鹿秀継・上淵寿・堀田千絵・津田恭充（2018）. 読んでわかる教育心理学 サイエンス社 |
| 学生に対する評価<br>定期試験（80%），授業内の課題（20%）                          |

|  |                            |             |                 |
|--|----------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>特別支援教育   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目       | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>内野 智之 |
|  |                            |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 教育の基礎的理解に関する科目             |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                            |             |                 |
| <p>○特別支援教育の理念と教育課程に関する基本的な知識が身に付いている。</p> <p>○特別の教育的ニーズのある生徒の理解と支援に関する基本的な知識や技能が身に付いている。</p> <p>○障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の困難とその対応に関する基本的な知識が身についている。</p> |                            |             |                 |
| 授業の概要  |                            |             |                 |
| 発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、それぞれの教育的ニーズに対する必要な知識や支援方法を理解する。   |                            |             |                 |
| 授業計画   |                            |             |                 |
| 第1回：オリエンテーション、特別支援教育の理念と基本的な考え方  |                            |             |                 |
| 第2回：特別支援教育と特別支援教育に関わる制度  |                            |             |                 |
| 第3回：障害・特別ニーズを有する子どもの教育史  |                            |             |                 |
| 第4回：幼稚園・小学校・中学校等における特別支援教育   |                            |             |                 |
| 第5回：教育課程の編成と指導   |                            |             |                 |
| 第6回：視覚障害の生徒の理解と対応  |                            |             |                 |
| 第7回：聴覚障害の生徒の理解と対応  |                            |             |                 |
| 第8回：知的障害の生徒の理解と対応  |                            |             |                 |
| 第9回：肢体不自由の生徒の理解と対応   |                            |             |                 |
| 第10回：病弱の生徒の理解と対応   |                            |             |                 |
| 第11回：言語障害の生徒の理解と対応   |                            |             |                 |
| 第12回：発達障害の生徒の理解と対応(1)LD、ADHD   |                            |             |                 |
| 第13回：発達障害の生徒の理解と対応(2) 自閉スペクトラム症  |                            |             |                 |
| 第14回：重複障害の生徒の理解と対応   |                            |             |                 |
| 第15回：障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の困難とその対応  |                            |             |                 |
| 定期試験   |                            |             |                 |
| テキスト   |                            |             |                 |

・特別支援教育総論 加瀬進・高橋智 NHK出版 ISBN978-4-595-31923-5 C-1337  
2,300円

参考書・参考資料等

- ・「中学校学習指導要領」文部科学省
- ・「高等学校学習指導要領」文部科学省
- ・「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」文部科学省
- ・「特別支援学校高等部学習指導要領」文部科学省
- ・その他、授中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

- 授業態度・意欲(10%)
- リアクションペーパー・小論文(20%)
- 定期試験：到達目標に係わる総合的なテスト(70%)

|   |                                   |             |                 |
|---|-----------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>教育課程論   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目              | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>和田 誠司 |
|   |                                   |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目   | 教育の基礎的理解に関する科目                    |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） |             |                 |
| <b>授業のテーマ及び到達目標</b><br>主として中学校段階における教育課程編成についての理解をすることにより、教職を担うために必要とされる素養を養うことができる。また、教育課程について歴史的視点や法制からとらえるとともに、主として中学校における目的や内容、実際の編成・実施・評価・改善の方法を理解することができるとともに、学校運営協議会制度、道徳科を要とする道徳教育、特別活動を要とするキャリア教育の具体を取り入れながら、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。  |                                   |             |                 |
| <b>授業の概要</b><br>各学校において望ましい学習が展開されるように意図して作成される教育内容の組織である教育課程について、その意義や編成方法、形態や構成要素、歴史的な変遷等について学ぶ。さらに、現代の教育課程の基準である中学校学習指導要領やその他の基本的な事項について、具体的な事例を通して学ぶ。また、その際実際に編成作業を個々で行い、その後、小集団で話し合う時間をもつことで、カリキュラム・マネジメントをイメージする。   |                                   |             |                 |
| <b>授業計画</b><br>第1回：ガイダンス 教育課程の役割・機能・意義<br>第2回：教育課程編成の思想と構造<br>第3回：近代・現代日本の教育課程のあゆみ<br>第4回：教育課程の編成と諸要因<br>第5回：学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連<br>第6回：各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連<br>第7回：カリキュラム・マネジメントの基本の考え方と、3つの側面<br>第8回：カリキュラム開発と学力向上策・指導改善PDCA<br>第9回：2008年学習指導要領改訂の経過と特徴と国際学力調査の教育課程改革への影響<br>第10回：中学校学習指導要領と教育課程編成の実際①(方針・組織)<br>～(編成の為の学び、個→グループワーク)<br>第11回：中学校学習指導要領と教育課程編成の実際②(学校教育目標と学校評価)<br>～(編成の為の学び、個→グループワーク) |                                   |             |                 |

- 第12回：中学校学習指導要領と教育課程編成の実際③(教科・道徳科を要とする道徳教育)  
～(編成の為の学び、個→グループワーク)
- 第13回：中学校学習指導要領と教育課程編成の実際④(総合的な学習の時間)  
～(編成の為の学び、個→グループワーク)
- 第14回：中学校学習指導要領と教育課程編成の実際⑤(特別活動を要とするキャリア教育)  
～(編成の為の学び、個→グループワーク)
- 第15回：学校運営協議会制度と社会に開かれた教育課程の編成 (チーム学校のPDCAサイクル)  
定期試験

#### テキスト

- ・「教職をめざす人のための教育課程論」(古川 治・矢野裕俊・前迫孝憲)北大路書房(2015/11)
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省(著)

#### 参考書・参考資料等

- ・参考文献は授業の中で紹介する

#### 学生に対する評価

- ・試験期間中に試験を実施(全授業内容の理解ができている) (70点)
- ・平常点等(30点) 配点内訳：授業への積極的参加10点 毎回の小レポート20点

|  |                                     |             |                |
|--|-------------------------------------|-------------|----------------|
| 授業科目名：<br>道徳教育論  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>脇田 正 |
|  |                                     |             | 担当形態：<br>単独    |
| 科 目  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 道徳の理論及び指導法                          |             |                |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                                     |             |                |
| <p>○学校における道徳教育の目標や道徳科の内容を理解する。</p> <p>○学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法及び評価のあり方について理解する。</p>  |                                     |             |                |
| 授業の概要  |                                     |             |                |
| <p>学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた道徳教育について、「特別の教科 道徳」として位置づけられるまでの改訂の経緯や歴史的経緯をおさえつつ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動及び生徒指導と道徳教育との関係に配慮しつつ、「道徳科」としての内容構成や指導の観点、指導計画の作成や具体的な教材例、評価のあり方など、道徳教育の基本的な考え方や指導実践を学ぶ。</p> |                                     |             |                |
| 授業計画   |                                     |             |                |
| 第1回：オリエンテーション～道徳教育とは何か～  |                                     |             |                |
| 第2回：今日の道徳教育の課題～道徳科への改訂を中心に～  |                                     |             |                |
| 第3回：子どもの発達と道徳性の形成  |                                     |             |                |
| 第4回：道徳教育及び道徳科の目標   |                                     |             |                |
| 第5回：道徳科の内容の基本的性格   |                                     |             |                |
| 第6回：道徳科の内容項目の指導の観点   |                                     |             |                |
| 第7回：道徳科の指導計画作成上の配慮事項   |                                     |             |                |
| 第8回：道徳科の指導の基本方針と学習指導の展開  |                                     |             |                |
| 第9回：道徳科の学習指導の多様な展開   |                                     |             |                |
| 第10回：道徳科の指導の配慮事項   |                                     |             |                |
| 第11回：道徳科の教材に求められる内容の観点   |                                     |             |                |
| 第12回：道徳科の学習指導案の作成  |                                     |             |                |
| 第13回：道徳科の評価のあり方  |                                     |             |                |
| 第14回：模擬授業と振り返り①指導展開を中心に  |                                     |             |                |
| 第15回：模擬授業と振り返り②教材開発と工夫について   |                                     |             |                |
| テキスト   |                                     |             |                |

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」文部科学省

その他は授業の中で指示する。

参考書・参考資料等

適宜授業の中で紹介する。

学生に対する評価

○レポート及び学習指導案の作成、模擬授業(80%)

基本的な指導方法を理解して指導案を作成し、模擬授業を行う

○平常点 (20%)

授業に積極的に参加し、主体的に学ぶことができる

|  |                                     |             |                               |
|--|-------------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業科目名：<br>特別活動及び総合的な学習の時間の指導法  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>脇田 正<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                               |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 総合的な学習（探求）の時間の指導法<br>特別活動の指導法       |             |                               |
| 授業のテーマ及び到達目標<br>○特別活動の理論と指導法に関する基本的な知識や技能が身に付いている。<br>○総合的な学習の時間の理論と指導法に関する基本的な知識や技能が身に付いている。  |                                     |             |                               |
| 授業の概要<br>教師としての基礎的知識・資質を養う科目として、教育課程の領域に位置づく特別活動及び総合的な学習の時間の内容について理解を深めるとともに、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを推進できる実践的指導力の基礎を培う。   |                                     |             |                               |
| 授業計画<br>第1回：ガイダンス 特別活動&総合的な学習の時間とは～自らの体験を振り返ろう～<br>第2回：特別活動の目標と内容に係る概説<br>第3回：特別活動の基本的性格と教育的意義<br>第4回：特別活動の内容と指導（1）学級活動<br>第5回：特別活動の内容と指導（2）生徒会活動<br>第6回：特別活動の内容と指導（3）学校行事<br>第7回：指導計画の作成と内容の取扱いについて<br>第8回：特別活動における評価と担当する教師の在り方<br>第9回：総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨<br>第10回：各学校において定める目標及び内容とその取扱い<br>第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成<br>第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成<br>第13回：総合的な学習の時間の学習指導の在り方<br>第14回：総合的な学習の時間の評価と校内体制づくり<br>第15回：まとめ<br>定期試験 |                                     |             |                               |
| テキスト<br>「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省<br>「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 文部科学省  |                                     |             |                               |

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省

学生に対する評価

- 平常点30%：授業態度・意欲(10%)、レポート課題(20%)
- 小テスト20%：基本的用語を理解している（中間テスト実施）
- 定期試験50%：到達目標に係わる総合的なテストを実施

|  |                                     |             |                 |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>教育方法論  | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>和田 誠司 |
|  |                                     |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教育の方法及び技術                           |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                                     |             |                 |
| <p>教育方法に関する原理や理論等をふまえながら、中学校段階を主とした授業構築における基本的な要件や必要な教育技術の基礎的な理解ができる。また、教育実践の具体から学ぶことにより、授業構築の理論と実践の融合を図ることができるとともに、学習形態や情報機器、教材を工夫した指導案を作成できる。</p>  |                                     |             |                 |
| 授業の概要  |                                     |             |                 |
| <p>学習指導要領改訂を受けて「何を教えるか」から「どのように学ぶか」の重視にともなう授業変革～主体的・対話的で深い学びの授業づくりの充実が求められている。この講義ではそれに向けた教員としての指導力・授業実践力を修得するために、教育方法に関わる歴史や原理、理論等について理解を深めるとともに、中学校段階を主とした生徒の成長・発達及び、目標や内容に応じた授業づくりの具体的教育実践から学ぶもの。</p> |                                     |             |                 |
| 授業計画   |                                     |             |                 |
| 第1回：オリエンテーション 「どのように教えるか」から「どのように学ぶか」への転換  |                                     |             |                 |
| 第2回：日本における教育方法の歴史①(近代学校制度と授業の成立)   |                                     |             |                 |
| 第3回：日本における教育方法の歴史②(授業の定型化と授業改造の試み)   |                                     |             |                 |
| 第4回：教育方法学の論点と課題①(学力、問題解決学習)  |                                     |             |                 |
| 第5回：教育方法学の論点と課題②(楽しい授業、教育技術)   |                                     |             |                 |
| 第6回：教育目標と内容(AL/教育目標～評価規準を考える)  |                                     |             |                 |
| 第7回：授業づくり～そのデザイン①～教科内容と学び（生徒の実態から授業デザインをグループワーク）   |                                     |             |                 |
| 第8回：授業づくり～そのデザイン②(対話的・協同的な学び、指導と支援)  |                                     |             |                 |
| 第9回：教材研究と教材・環境①～社会科を通して～(魅力力な教材の活用をグループワーク)  |                                     |             |                 |
| 第10回：教材研究と教材・環境②～社会科を通して～(学習環境のデザインをグループワーク)   |                                     |             |                 |
| 第11回：情報機器の活用(ICT授業構想づくりをグループワーク)   |                                     |             |                 |
| 第12回：教育評価①～形成的評価と自己評価(授業の中の評価基準づくりをグループワーク)  |                                     |             |                 |
| 第13回：教育評価②～社会科の目標に準拠した評価   |                                     |             |                 |
| 第14回：学び方学習と主体的・協働的な学習  |                                     |             |                 |

第15回：主体的・対話的で深い学びの視点での指導案づくり

定期試験

テキスト

「新しい時代の教育方法」 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之 有斐閣 2012

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省(著)

学生に対する評価

- ・ 試験70% (授業内容の理解ができている)
- ・ 平常点30% (授業への参加態度、レポート)

|   |                                     |             |                                |
|---|-------------------------------------|-------------|--------------------------------|
| 授業科目名：<br>情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：<br>高野 盛光<br>担当形態：<br>単独 |
| 科 目   | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                                |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法                |             |                                |
| <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報通信技術の活用の必要性についての意義や背景、活用における留意点、環境整備の在り方について理解できる。</li> <li>・ 情報活用技術を効果的に使用した、学習場面での指導法、学習評価や遠隔教育に関連したシステム、校務の推進のあり方について理解できる。</li> <li>・ 各教科等で生徒に育成する情報活用能力(情報モラルを含む)の内容や、特性に応じた指導事例を理解し、指導法を身につけることができる。</li> </ul>  |                                     |             |                                |
| <p>授業の概要</p> <p>社会状況の大きな変化や学習指導要領改訂にともなう授業改善の必要性を受けて、教育における情報通信技術の活用が求められている。この講義では生徒に情報活用能力を育成するための知識・技能を修得するために、教育における情報通信技術活用の背景や理論、学習指導や校務における情報通信技術の推進方法や基礎的な指導方法を学ぶもの。</p>  |                                     |             |                                |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、GIGAスクール構想と学校現場の現状、ICT環境の整備</p> <p>第2回：「令和の日本型学校教育」と情報通信技術の活用</p> <p>第3回：情報通信技術を活用した指導事例とシステムの使用法</p> <p>第4回：スタディ・ログを活用した学習評価と情報セキュリティ</p> <p>第5回：遠隔・オンライン教育のシステムの使用法、情報通信機器の基本的な操作方法</p> <p>第6回：各教科における情報通信技術を活用した授業構想</p> <p>第7回：各領域における情報通信技術を活用した授業構想</p> <p>第8回：情報通信技術を活用した校務のあり方</p> <p>定期試験</p> |                                     |             |                                |
| <p>テキスト</p> <p>毎回、プリントを配付</p>   |                                     |             |                                |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省(著)</p> <p>教育の情報化に関する手引 令和元年 12 月 文部科学省(著)</p>   |                                     |             |                                |

学生に対する評価

- ・ 定期試験 70% (授業内容の理解ができている)
- ・ 平常点 30% (授業への参加態度、レポート)

|  |                                     |             |                 |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>生徒・進路指導論   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>和田 誠司 |
|  |                                     |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 生徒指導の理論及び方法                         |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                                     |             |                 |
| <p>○学校教育における生徒指導・進路指導の意義と課題について理解し、教師や学校の果たす役割について説明することができる。</p> <p>○児童生徒の自己指導能力の育成を目指すための生徒指導・進路指導の進め方について、いじめや不登校、進路等の課題をもとに具体的に説明することができる。</p>   |                                     |             |                 |
| 授業の概要  |                                     |             |                 |
| <p>学校現場で問題になっている生徒指導・進路指導及びキャリア教育上の課題について理解し、生徒指導・進路指導に関する専門的知識と実践的指導力を身に付けることができるように、それぞれの意義や原理とともに具体的事例を提示し、検討していくようにする。生徒指導・進路指導及びキャリア教育が教育活動全体を通じて行われる機能、領域であることを踏まえ、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に取り組んでいくために必要な知識や素養を身に付ける内容である。</p> |                                     |             |                 |
| 授業計画   |                                     |             |                 |
| 第1回：生徒指導とは何か～生徒指導の意義と原理～   |                                     |             |                 |
| 第2回：教育課程と生徒指導  |                                     |             |                 |
| 第3回：児童生徒の心理と児童生徒理解   |                                     |             |                 |
| 第4回：学校における生徒指導体制   |                                     |             |                 |
| 第5回：教育相談   |                                     |             |                 |
| 第6回：児童生徒全体への生徒指導のあり方   |                                     |             |                 |
| 第7回：個別の課題の指導（1）問題行動の早期発見と効果的な指導  |                                     |             |                 |
| 第8回：個別の課題の指導（2）いじめ、不登校問題   |                                     |             |                 |
| 第9回：個別の課題の指導（3）インターネット、性、命の教育  |                                     |             |                 |
| 第10回：生徒指導に関する法制度   |                                     |             |                 |
| 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と理論   |                                     |             |                 |
| 第12回：キャリア教育の方法と技術  |                                     |             |                 |
| 第13回：職業観・勤労観の形成  |                                     |             |                 |
| 第14回：進路相談の進め方  |                                     |             |                 |

## 第15回：まとめ

## 定期試験

## テキスト

「生徒指導提要」 文部科学省 教育図書

「よくわかる生徒指導・キャリア教育」小泉令三編 ミネルヴァ書房

## 参考書・参考資料等

「変わる！キャリア教育：小・中・高等学校までの一貫した推進のために」文科省 ミネルヴァ書房

## 学生に対する評価

- 平常点30%：授業態度・意欲(10%)、レポート課題(20%)
- 小テスト20%：基本的用語を理解している(中間テスト実施)
- 定期試験50%：到達目標に係わる総合的なテストを実施

|  |                                     |             |                 |
|--|-------------------------------------|-------------|-----------------|
| 授業科目名：<br>教育相談   | 教員の免許状取得のための<br>必修科目                | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>和田 誠司 |
|  |                                     |             | 担当形態：<br>単独     |
| 科 目  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                 |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等  | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法  |             |                 |
| 授業のテーマ及び到達目標   |                                     |             |                 |
| <p>○学校における教育相談の特質及び重要性について理解し、具体的な支援が説明できるようになる。</p> <p>○教育相談の進め方、必要な基礎的知識を理解し、幼児児童生徒の望ましい成長・発達を援助するための具体的援助法を身に付ける。</p>     |                                     |             |                 |
| 授業の概要  |                                     |             |                 |
| 教育相談の意義と役割について、今日的な学校教育の課題を整理しながら、その教育的対応のあり方及び方向性について講義する。また、教育現場ですぐに活用できるよう、カウンセリングの基礎的な知識・技能を習得し、実践的・協働的な学びの中で活用できる授業を行う。 |                                     |             |                 |
| 授業計画   |                                     |             |                 |
| 第1回：オリエンテーション～教育相談とは何か～  |                                     |             |                 |
| 第2回：学校における教育相談の特質  |                                     |             |                 |
| 第3回：教師に求められる臨床的視点～学校におけるカウンセリングマインド～   |                                     |             |                 |
| 第4回：子どもの発達課題と教育相談  |                                     |             |                 |
| 第5回：「問題行動」と教育相談（1）いじめ、暴力問題   |                                     |             |                 |
| 第6回：「問題行動」と教育相談（2）不登校、児童虐待問題   |                                     |             |                 |
| 第7回：カウンセリングの理論と技法（1）精神分析、自己理論、行動理論   |                                     |             |                 |
| 第8回：カウンセリングの理論と技法（2）個別面接の基本技法  |                                     |             |                 |
| 第9回：保護者支援と教育相談   |                                     |             |                 |
| 第10回：特別支援教育と教育相談   |                                     |             |                 |
| 第11回：予防的・開発的教育相談（1）ブリーフカウンセリング   |                                     |             |                 |
| 第12回：予防的・開発的教育相談（2）アサーショントレーニング、ストレスマネジメント   |                                     |             |                 |
| 第13回：教師支援と校内の教育相談体制  |                                     |             |                 |
| 第14回：専門機関とのネットワークと教育相談   |                                     |             |                 |
| 第15回：まとめ   |                                     |             |                 |
| 定期試験   |                                     |             |                 |
| テキスト   |                                     |             |                 |

|   |
|---|
| 「生徒指導提要」 文部科学省 教育図書<br>「よくわかる教育相談」春日井敏之・伊藤美奈子編 ミネルヴァ書房  |
| 参考書・参考資料等<br>「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」h29.1 教育相談等に関する調査研究協力者会議   |
| 学生に対する評価<br>○平常点30%：授業態度・意欲(10%)、レポート課題(20%)<br>○小テスト20%：基本的用語を理解している（中間テスト実施）<br>○定期試験50%：到達目標に係わる総合的なテストを実施 |

## シラバス：教職実践演習

|              |  |                               |
|--------------|--|-------------------------------|
| シラバス：教職実践演習  | 単位数：2単位  | 担当教員名：國枝 徹朗                   |
| 科目           | 教育実践に関する科目   |                               |
| 履修時期         | 4年次後期  | 履修履歴の把握(※1) ○ 学校現場の意見聴取(※2) ○ |
| 受講者数         | 10人  |                               |
| 教員の連携・協力体制   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した学習指導案について、扱う種目の教科専門担当教員に添削等の指導をしてもらう。</li> <li>・授業中に起きた事故対応について、事前指導やマニュアル提供をしてもらう。</li> </ul>   |                               |
| 授業のテーマ及び到達目標 | <p>社会で求められている教員としての資質を培うことを目指す。そのために、教育への情熱や使命感、責任感をもち、生徒に対する豊かな愛情をもつこと。学習指導、生徒指導にわたる実践的指導力を身に付けること。生徒理解を深める姿勢や学級づくりの方法を会得すること。組織の一員としての社会的行動力が発揮できるよう小集団で考察したり、意見交流を深めたりしながら、実践力を高める。</p>   |                               |
| 授業の概要        | <p>大学で学修した知識・技術と教育実習等で得られた学習指導や生徒指導の経験を統合して、実践的指導力の基盤をつくる。演習では、生徒や保護者、教師等の異なる立場に立って思考・行動する訓練(討論、ロールプレイ、事例研究、模擬授業)等を通して教員としての使命感や責任感を体得する。こうした学習を通して、新任の教師としての心構えや技能等を体得する。</p>   |                               |
| 授業計画         | <p>第1回：オリエンテーション(新任教員としての課題、授業計画等～実際の学校現場で働く先輩の話を聞く)及び履修カルテを用いて大学で履修した科目や学修した知識・技術の振り返りと次時からの授業の意識化</p> <p>第2回：学級づくりの試み(学級目標の設定、学級経営方針と計画、学級経営案の作成)</p> <p>第3回：学級経営方針についての保護者説明会のロールプレイと討議</p> <p>第4回：生徒指導と集団づくり(生徒理解の情報収集・分析、集団の核となる生徒等)</p> <p>第5回：集団づくりと日常生活(学級経営と日常活動、当番活動等)</p> <p>第6回：いじめや不登校などの対応(いじめ・不登校の現状・対応、二次障害等)</p> <p>第7回：事例研究:いじめによる生徒の自殺事件を通して</p> <p>第8回：特別な支援を必要とする生徒(特別支援教育、発達障害の理解と支援方法の考察等)</p> <p>第9回：道徳の授業案作成(中学校における内容項目、授業の展開の基本、小集団による指導略案作成など)</p> <p>第10回：基本的な授業技術(ICTを活用した教材開発、教材化、課題解決的学習、電子黒板の活用等)</p> <p>第11回：授業設計Ⅰ：教科における授業設計(ねらい、学習過程、資料選定と作成)</p> <p>第12回：学習指導案の作成と考察(授業のあり方の究明)</p> |                               |

|  |
|--|
| <p>担当教員による学習指導案の指導・講評の紹介</p> <p>第13回：模擬授業Ⅰ（英語領域）と授業研究（ICTの活用）</p> <p>第14回：模擬授業Ⅰ（英語領域）と授業研究（ICTの活用）</p> <p>第15回：学級だより（学級通信）の効果と作成（意義、効果、タイプなど）生徒・保護者・教員が期待する教師</p>  |
| <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級だより（学級通信）の効果と作成（意義、効果、タイプなど）</li> <li>・東海学院大学「教育実習の手引」、毎回プリント配付</li> </ul>   |
| <p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料等を適宜紹介する</li> </ul>   |
| <p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等に対する意欲・態度（ノートを取る・聞く）が良い。 20%</li> <li>・各回の講義の成果等をまとめることができる。 30%</li> <li>・学習指導案が作成できる。 30%</li> <li>・学級経営案等の作成や課題レポート、口頭発表ができる。 20%</li> </ul> |

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。